

平成 30 年度

「基礎学力調査」

— 分析・考察と指導事例 —

平成 30 年 10 月
石川県教育委員会

目 次

本書の構成	1
1 教科に関する調査について	
2 質問紙調査について	
本書の活用にあたって	2
I 教科に関する調査結果の分析・考察	3
《小学校第4学年 国語》	6
《小学校第4学年 算数》	12
《小学校第6学年 社会》	20
《中学校第3学年 社会》	28
《中学校第3学年 英語》	34
II 質問紙調査結果の分析・考察	41
1 小学校第4学年児童の調査結果	43
2 学習・生活状況と正答率との関係	50
3 教員の調査結果	52

本書の構成

1 教科に関する調査について

(1) 全体的な傾向の分析・考察

- ・全体的な結果の状況

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

- ・領域・分野ごとの結果の状況

児童生徒の到達状況を下表のように表記した。

正 答 率	「到達状況」を示す記号，用語
90%以上の場合	◎：良好である
80%以上～90%未満の場合	○：概ね良好である
70%以上～80%未満の場合	◇：基準に到達している
60%以上～70%未満の場合	▽：十分とはいえない
60%未満の場合	▼：不十分である

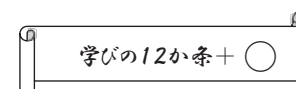
- ・分析・考察及び学習指導に当たって留意すべきこと等
- ・参考となる他の指導事例や過去の調査問題
- ・「指導法改善のポイント」

(3) 改善に向けた指導事例

- ・教科ごとに，改善に向けた指導事例を2事例記載し，以下の内容を示す。

	項 目	内 容
①	問題と解答 の状況	・設問番号，領域・分野，出題のねらい，評価の観点 ・関連問題 ・正答例，誤答例，正答率，誤答率，無解答率
②	指導法改善 に向けて	・解答状況の分析・考察 ・指導法改善の具体的なポイント
③	改善事例	・学年，単元（指導内容等） ・指導のねらい ・具体例

- ・関連する「プラス学びの12か条+」（巻末資料参照）の項目を右のように示す。



2 質問紙調査について

(1) 小学校第4学年児童の調査結果

- ・設問ごとの経年比較，学年間比較

(2) 学習・生活状況と正答率との関係

- ・正答率との関係を基にした分析・考察

(3) 教員の調査結果

- ・設問ごとの調査結果

本書の活用にあたって

「教科に関する調査結果の分析・考察」のページでは、以下のように、取り上げた問題に関連した指導事例や調査問題、指導に当たって留意すべきこと等を記載してあります。今後の授業の参考、取組の検証にご活用ください。

The diagram illustrates the layout of the book's 'Analysis and Reflection on Survey Results' section. It includes the following components and callouts:

- Header:** A box for 'School Year and Subject' (○学校第○学年 教科) and a table for 'Average Correct Answer Rate' (県平均正答率) and 'School Correct Answer Rate' (学校正答率).
- Section 1:** (1) 全体的な傾向の分析・考察 (Overall trend analysis and reflection).
- Section 2:** (2) 領域・分野ごとの分析・考察 (Analysis and reflection by domain/field). This section includes a table for 'Domain/Field Name' (領域・分野名), 'Average Correct Answer Rate' (県平均正答率), and 'School Correct Answer Rate' (学校正答率).
- Section 3:** (3) 出題の趣旨 (Intention of the question). This section includes a table with columns for 'Question Number' (設問番号), 'Question Content' (問題の内容), 'Average Correct Answer Rate' (県平均正答率), and 'School Correct Answer Rate' (学校正答率).
- Section 4:** (4) 指導法改善のポイント (Points for improvement in teaching methods). This section includes a table with columns for 'Question Number' (設問番号), 'Question Content' (問題の内容), 'Average Correct Answer Rate' (県平均正答率), and 'School Correct Answer Rate' (学校正答率).

Callouts provide additional information:

- ①参考となる他の指導事例** (Other reference teaching cases): Points to the 'School Correct Answer Rate' column in the table for Section 2.
- ②参考となる調査問題** (Reference survey questions): Points to the 'School Correct Answer Rate' column in the table for Section 3.
- ③学習指導に当たって** (When conducting learning guidance): Points to the 'School Correct Answer Rate' column in the table for Section 4.
- ④指導法改善のポイント** (Points for improvement in teaching methods): Points to the 'School Correct Answer Rate' column in the table for Section 4.

① 参考となる他の指導事例

以下の略称を用いて記載しています。

- (全) … 「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例」に掲載されている事例
- (県) … 「基礎学力調査－分析・考察－」に掲載されている事例
- (P) … WEB サイト「学力向上プログラム」に掲載されている事例

② 参考となる調査問題

以下の略称を用いて記載しています。

- (全) … 全国学力・学習状況調査で出題された問題
- (県) … 本県の基礎学力調査で出題された問題
- (P) … WEB サイト「学力向上プログラム」に掲載されている評価問題

③ 学習指導に当たって

取り上げた問題について、調査結果を受け、学習指導の改善・充実を図る際のポイントを、箇条書きで記載しています。

④ 指導法改善のポイント

今年度の調査結果より、特に課題が見られた問題について、指導法改善のポイントを記載しています。

I 教科に関する調査結果の分析・考察

小学校 第4学年
「国語」「算数」

小学校第4学年 国語

県平均正答率	学校正答率
61.7%	%

(1) 全体的な傾向の分析・考察

30年度の平均正答率は61.7%で、29年度より10.6ポイント低下している。話すこと・聞くこと領域において、設問の場面設定を新たに話し合いとしたため、多様な情報の活用に対応できなかったことが一因として挙げられる。特にこの領域においては、話の中心に気を付けて聞き、分からない点や確かめたい点を質問することに課題が見られ、指導法の改善が必要である。また、目的に応じて、中心となる語や文を捉えて文章を読むことにも依然として課題が見られ、指導法の改善が必要である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【話すこと・聞くこと】 (県平均正答率:61.9%) (学校正答率: %)

◇: 目的に応じて、理由や事例を挙げながら筋道を立てて話すこと【一1】

設問一1の正答率は、基準に到達している。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
一	1	話し方の工夫	76.6%

今後も、筋道を立てて話すことができるように、自分の考えを先に言い、次に考えた理由を言わせる指導が必要である。

(県) H26:事例1

(県) H28:一3

▼: 話の中心に気を付けて聞き、分からない点や確かめたい点を質問すること【一2】

設問一2については、p.8参照。指導に当たっては、次のようなことに留意する必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
一	2	聞き方の工夫	30.8%

(県) H26:一2 H25:一3

- ・話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えさせること
- ・質問するなどして知りたい事柄を集めたり、それらを発表したりする活動を行うこと

【書くこと】 (県平均正答率:52.8%) (学校正答率: %)

◇: 自分の考えが明確になるように書くこと【八1条件】

設問八1の正答率は、基準に到達している。条件に即して書く指導が、意図的・計画的に行われてきたためと考えられる。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
八	1	文章全体における段落の役割(条件)	70.4%

(県) H28:八1 H27:八1 H26:八3

▼: 文章の間違いなどに気付き、正すこと【八2】

設問八2の正答率は、昨年に引き続き課題が見られた。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
八	2	間違いを正す	59.0%

文字の正しい表記に対する理解の不足、書いた文章を読み返す習慣が身に付いていないことが要因として考えられる。指導に当たっては、以下の点を充実させることが必要である。

(県) H29:事例1

(県) H29:八2

- ・促音、拗音、長音など、文字の正しい表記を理解させること
- ・書いた文章を丁寧に読み返す習慣を、低学年から身に付けさせること
- ・読み返す際には、学年に応じた視点をもたせること

【読むこと】 (県平均正答率: 59.7%) (学校正答率: %)

○: 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと〔二4〕

設問二4の正答率は、27年度の類似問題を16.6ポイント上回った。必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読む学習活動が充実してきたと考えられる。

設問番号		問題の内容	県平均正答率	学校正答率
二	4	目的に応じた読書	83.8%	%

(県) H28:二4 H27:二4 H26:二1

▼: 目的に応じて、中心となる語や文を捉えて文章を読むこと〔二2〕

設問二2については、p.10 参照。

指導に当たっては、次のようなことに留意する必要があると考えられる。

設問番号		問題の内容	県平均正答率	学校正答率
二	2	説明的文章の内容理解と活用	30.8%	%

(県) H25:事例1 H26:事例2 H27:事例2

(全) H30:A3 H29:A3 H27:A2一 (県) H29:二4 H28:二1 H27:二1

- ・低学年から、目的に応じて文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、その言葉や文を基に自分の経験と結び付けること

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 (県平均正答率: 65.8%) (学校正答率: %)

▽: 文を構成する主語と述語の照応関係を捉えること〔三4〕

設問三4の正答率は、十分とは言えない。それぞれの文の中での語句の役割や、語句相互の関係に気を付けて、文がどのように組み立てられているかを理解する学習が不十分であると考えられる。

設問番号		問題の内容	県平均正答率	学校正答率
三	4	主語と述語の照応関係	69.7%	%

(全) H27:A2二

指導に当たっては、次のようなことに留意する必要があると考えられる。

- ・主述が整った文を複数提示し、述語を物の名前を表す語句(「何だ」)・動きを表す語句(「どうした」)・様子を表す語句(「どんなだ」)の三つに類別することを通して、いろいろな文の構成があることを理解させること

▼: 指示語の果たす役割を理解し、使うこと〔三1〕

設問三1は、29年度に引き続き不十分である。読みの指導の中で、文相互の関係を端的に示す手掛かりとなるものとして、指示語について理解させる指導が不十分であると考えられる。

設問番号		問題の内容	県平均正答率	学校正答率
三	1	指示語	42.1%	%

(県) H29:三2(2) H21:三4

指導に当たっては、次のようなことに留意する必要があると考えられる。

- ・文章を書く機会を捉えて、文脈に沿って指示語の役割を理解し、使うことの指導を工夫すること
- ・「指示する語句」を適切に使うことで、簡潔に表現したり、内容のつながりを明瞭に表したりできると理解させること

指導法改善のポイント

- 話し手が伝えたいことの中心を捉えて質問したり、感想を話したりする学習活動を充実すること (→ 事例1)
- 目的に応じて、中心となる語や文を捉えて文章を読み、それらを基に自分の体験と結び付ける学習活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条 + 4

ア 事例1

話し手が伝えたいことの中心を捉えて質問したり、感想を話したりする学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
一 2	話すこと・聞くこと	話の中心に気を付けて聞き、聞いた事柄を基に、分からない点や確かめたい点を質問することができる。	話す・聞く能力

一 2 山田さんが、① のところで、大川さんにどんな質問をしたのかを書きましょう。

正答例	誤答例	
- なぜ、森さんのお話もしょうかいしたいのですか。 - 森さんのお話をしょうかいしたいわけを教えてください。	- なぜ、そんなに朝早くから（しゅうかく）するのですか。 - どうして、そう思ったのですか。	
正答率（準正答率）	誤答率	無解答率
30.8% (6.9%)	48.6%	20.6%

② 指導法改善に向けて

話の中心に気を付けて聞き、分からない点や確かめたい点について、どのように質問したらよいか考えさせる問題であるが、誤答率も無解答率も高かった。誤答から、話し手の伝えたいことの中心を捉えて聞く力が不十分であり、話の中心に関連して自分が知りたいことについて、適切な言葉を使って質問することができないことが窺える。

指導に当たっては「話の中心は何か」「話の中心を捉えた上でどんな質問をしたらよいのか」「どのような言葉を使って質問したらよいのか」ということを考えさせながら、質問をする経験を積ませる必要がある。

③ 改善事例 第3学年 『よい聞き手になろう』 光村三年上

1 指導のねらい

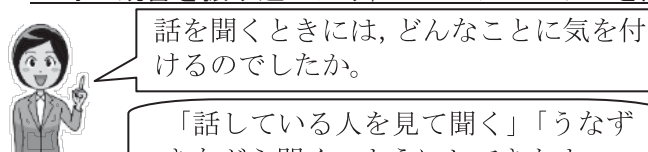
- 話の中心に気を付けて聞き、質問したり感想を言ったりする。（話すこと・聞くことエ）
- 日常生活から話題を決め、適切な言葉遣いで道筋を立てて話すことができる。（話すこと・聞くことイ）

言語活動：遠足（学校行事）で経験したことをもとにスピーチ大会をする

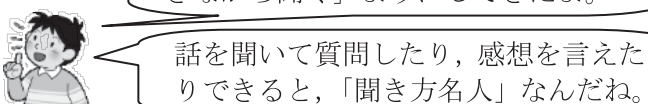
単元計画	第一次	1時 既習を振り返ったり、スピーチのモデルを聞いたりして、単元の見通しをもつ 2時 聞き方名人になるために、よい質問や感想について考え、練習しよう
	第二次	3時 スピーチ大会をするために、自分の話す話題を考える 4時 「はじめ」「中」「おわり」でスピーチ原稿を作る
	第三次	5・6時 スピーチ大会をし、互いに質問や感想を話す。聞き方名人になったのか、振り返る

2 具体例

1時 既習を振り返ったり、スピーチのモデルを聞いたりして単元の見通しをもつ



ポイント①
よい聞き方について振り返りができるように、既習を掲示しておきましょう。



ポイント②
ゴールの姿がイメージできるように、スピーチのモデルを聞かせましょう。

【教師作成のスピーチ原稿】



・内容をくわしく知るための質問

A cartoon illustration of a young boy with dark hair, wearing a striped shirt, pointing his right index finger upwards. He has a speech bubble above his head containing a small icon of a person with a plus sign, likely representing a health or safety concept.

アサガオのつるは、
はり金みたいな細い
ぼうにもまきつくの
ですか。



わたしは、アサガオのつるにけが下むきに生えていることと、なぜ下むきにけが、生えているのかをはじめて知っておどろきました。

みなさんは、アサガオのつるには、下むきにほそいけが、たくさん生えていることを知っていますか。アサガオは、つるをぼうにまきつけながら、上へのびていきます。下むきにけが生えていると、ぼうにまきついた時、つるがぼうからずりおちないのだそうです。そして、下向きにしていた、けのおかげで、いろいろな太さや形のぼうにまきつくこともできるそうです。

きのう、図書室でよくぶつの本を読んでいたら、アサガオのつるについて書かれた本を見つけました。

はじめ

- ・ 話の中心からはずれた質問



なぜ、変なのですか。

先生が伝えたいことと関係がある質問とは、どんな質問ですか。

「話し手が伝えたいことは何か」を考えて聞くと、話し手が伝えたいこととつながった質問ができますね。

図書室に行った時について
聞くのは、変だと思います。

先生が伝えたいことと関係ない質問になっているからです。

アサガオのつるに関する質問だと思います。

話の中心に気を付けて聞く
ことができれば、「聞き方名人」
なんだね。

「話し手が伝えたいこと」を話の中心と言うこと、話の中心は、「中」の内容になることを指導しましょう。

ほかにも、ありますか。

聞きたい事柄をはっきりさせて伝えるために、教科書 p.36～p.37『きちんとつたえるために』を活用しましょう。

何について聞いているのか、
わかりにくい質問だと思います。

「アサガオのほかに、けが下むきに生えているしょくぶつは、ほかにもありますか。」と変えたらどうかしら。

学習後、朝の会や朝の学習でスピーチをし、スピーチを聞いて質問をしたり、感想を伝えたりする場を意識的に設定しましょう。

- ・はじめ、中、おわりを記載したスピーチ原稿用紙
- ・振り返り用紙

・話の中心とかんれんしたしつもんやかんそうを書きましよう。

④話の中心とかんれんして、しつもんやかんそうをする

③はんのうする

②話し手を見る

①さい後まで聞く

及力

書

話題

聞き方名人かな、ふりかえろう

イ 事例2

目的に応じて、中心となる語や文を捉えて文章を読み、それらを基に自分の体験と結び付ける学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
二 2	読むこと	目的に応じて、中心となる語や文を捉えて文章を読むことができる。	読む能力

二 2 土田さんは、アサガオを育てている弟に、【本】の内容をもとにして、次のように話しました。
□□□□□□□にあてはまる言葉を、【本】の中から七字でぬき出して書きましょう。

アサガオは、ぼうにまきつくから、たおれずに
□□□□□□□ができるんだよ。

正答例	誤答例	
上にのびること	・ じょうぶなくき ・ のびていくこと	・ 生きのびること
正答率（準正答率）	誤答率	無解答率
30.8%（0.0%）	50.0%	19.2%

② 指導法改善に向けて

目的に応じて中心となる語や文を捉えることを求めた問題である。しかし、「じょうぶなくき」をぬき出す誤答が多く見られ、文章の中で大事な言葉や文を手がかりにして、文章の内容と自分の経験とを結び付けて読む力が不足していると考えられる。

指導に当たっては、大事な言葉や文を書き抜くこと、その言葉や文を基に自分の経験と結び付けながら読むことの指導が必要である。

③ 改善事例 第2学年『おにごっこ』 光村二年下

1 指導のねらい

- ・ 自分の知っていることやしたこととつなげて読み、自分で考えたことを発表し合う（読むことオ）
- ・ 自分の考えをまとめるために、文章に書かれている大事な言葉や文など書き抜く（読むことエ）

言語活動：おすすめのおにごっこを、「おすすめおにごっこカード」にまとめ、紹介しよう

単元計画	第一次	1時 教師の作成した言語活動成果物モデルを基に、単元の見通しをもつ 《おすすめのおにごっこの「遊び方」と「遊び方のよいところ」を考え、まとめよう》
	第二次	2時 内容をおおまかに捉える 3・4時 <u>おにごっこの「遊び方」と「遊び方のよいところ」について捉える</u>
	第三次	5時 <u>おすすめするおにごっこの「遊び方」と「遊び方のよいところ」について考える</u>
		6時 <u>おすすめするおにごっこの「遊び方」と「遊び方のよいところ」についてまとめる</u>
		7時 おすすめするおにごっこを実際にやってみて、「あそび方」と「あそび方のよさ」を検証する

2 具体例

3・4時 おにごっこの「遊び方」と「遊び方のよいところ」について捉える

【四段落】

【ワークシート】

【二段落】

ほかに、「おにが交代せずに、つかまった人が、みんなおになくなっておいかけろ。」という「あそび方」もあります。この「あそび方」だと、おにの数がふえていくので、おには、にげる人をつかまえやすくなります。また、にげる人は、おにがひとりのときより、にげるところをくふうしたり、じょうずに走ったりしなければなりません。…	4	おには手をつなぐ	3	おにがふえる	2	つかまらない場しょ	1	にげてはいけない場しょ	あそび方
一つの段落に「あそび方」と「あそび方のよいところ」が書いてあるね。 おすすめの「おにごっこ」も「あそび方」と「あそび方のよいところ」を紹介したらいいね。	・長くあそべる	・つかまえやすい ・にげるところをくふう ・じょうずに走る	かんたんにつかまらない	つかまえやすい	あそび方のよいところ	文章の言葉、あそび方に目を付けると、遊び方が見付けられますね。	あそび方の一つに、「てつぼうよりむこうににげてはだめ」など、にげてはいけないところをきめるものがあります。…にげてはいけないところをきめることで、おには、にげる人をつかまえやすくなります。	あそび方の一つに、「てつぼうよりむこうににげてはだめ」など、にげてはいけないところをきめるものがあります。…にげてはいけないところをきめることで、おには、にげる人をつかまえやすくなります。	

5時 おすすめするおにごっこの「遊び方」と「遊び方のよいところ」について考える

「こおりおに」の「あそび方のよいところ」は、何だろう。

おすすめの「おにごっこ」の「遊び方のよいところ」を考えさせる時は、教材文に書かれている「遊び方のよいところ」の言葉を手がかりに考えさせましょう。

「こおりおに」は、タッチされたらとまって休むことができる。だから、長くあそぶことができるんだ。

6時 おすすめするおにごっこの「遊び方」と「遊び方のよいところ」についてまとめる

おすすめの「おにごっこ」の「遊び方」と「遊び方のよいところ」を関連付けて書くことができればいいですね。

実際にやってみて、「あそび方」と「あそび方のよいところ」を確かめてみよう。



友達のおすすめの「おにごっこ」について、聞いてみたいな。

【おすすめのおにごっこカード】

ぼくが、おすすめするおにごっこは、「こおりおに」です。

このおにごっこは、「おににつかまった人が、その場でとまる」というあそび方です。そして、とまってこおりになった人は、にげている人にタッチされたら、またにげることができます。

このおにごっこでは、タッチされたら、とまってこおりになるので、その間に休むことができます。だから、つかれないで、長くあそぶことができます。

また、だれかにタッチしてもらえると、とてもうれしい気持ちになります。

小学校第4学年 算数

県平均正答率	学校正答率
75.1%	%

(1) 全体的な傾向の分析・考察

30年度の平均正答率は75.1%で、29年度より1.3ポイント上がり、基準に到達している。「数量関係」領域の棒グラフを読み取ることについては、19年度より14.3ポイント上回ったが、グラフから読み取った情報を根拠に理由を説明することについては依然として課題が見られる。また、「数と計算」領域では、帰納的な考え方をを用いてきまりを読み取ること、「量と測定」領域では、複数の条件に当てはまる時間を判断すること、「図形」領域では、条件に当てはまる図形の判断をすることに課題が見られる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【数と計算】 (県平均正答率：81.4%) (学校正答率：%)

◎：基本的な四則計算をすること〔1〕

基本的な四則計算については良好である。今後も、波及的繰り下がりのある減法計算や整数と小数が混じったり桁が異なったりする加減計算のように、児童がつまづきやすい計算については、児童の学習状況を把握し、適宜練習の機会を設けたり、適切な反復による学習を位置付けたりして指導することが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1	(1) 波及的繰り上がりのある加法計算	96.0%	%
	(2) 波及的繰り下がりのある減法計算	89.0%	%
	(3) 余りのある除法計算	95.8%	%
	(4) 整数－分数	92.7%	%
	(5) 小数－整数	83.7%	%

(全) H29: A 2 (2) (県) H29: 1

▼：帰納的な考え方をを用いてきまりを読み取ること〔6(2)〕

設問6(2)については、p.14 参照。指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
6	(2) 帰納的な考え方をを用いたきまりの読み取り	55.9%	%

(県) H26: 事例1 H24: 事例1

(全) H29: B 1 (県) H24: 9(2)

・帰納的な考え方を身に付けさせるため、以下の学習過程を踏まえた指導を行うこと

- ①複数の具体例を集める
- ②共通にみられるきまりや性質を見いだす
- ③別の具体例で確かめる
- ④数学的な用語を用いて表現する

【量と測定】 (県平均正答率：76.1%) (学校正答率：%)

◎：長さの単位の関係を理解すること〔2(3)〕

29年度の設問に比べ、28.6ポイント上回り、基準に到達している。cmの単位で表した長さの数値が3桁であり、cmとmの単位の関係が捉えやすかったためと考えられる。単位の関係については、新たな単位を学習した際、今までに学習した単位とどのような関係になっているかを考えさせ、単位間の関係を統合して捉えること、量の大きさについての感覚を豊かにすることについては、様々な具体物の大きさを調べたり確かめたりするなど、さらに指導の充実を図ることが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2	(3) 長さの単位換算	91.8%	%

(県) H28: 事例2

(県) H29: 2 (2)

▼：複数の条件全てに当てはまる時間を求めること〔5(1)〕

28年度の設問に比べ3.2ポイント下回り、与えられた複数の条件を基に筋道を立てて考えることに依然として課題がある。必要な情報を図に整理したり、図から分かる事柄を正しく捉えたりする活動が十分でないと考えられる。指導に当たっては、次のようなことに留意する必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5	(1) 複数の条件全てに当てはまる時間の判断	62.3%	%

(県) H28: 4 (2)

- ・問題の解決に必要な情報を図に表したり、図から情報を読み取ったりする活動を充実すること
- ・答えを求めた後に条件に照らして答えを確認する活動を位置付けること
- ・問題の解決過程を振り返り、図に表して考察することのよさを実感できる場を設定すること

【図形】 (県平均正答率：76.3%) (学校正答率： %)

○：長方形の辺と円の直径を関連付けること〔5(3)〕

この設問については、27年度の設問に比べ6.7ポイント上回り、概ね良好である。今後も図形の性質についての理解を深められるようにするために、図形の構成要素に着目し、他の図形の性質と関連させて考えたり、説明したりする学習活動を充実させていく必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5	(3) 長方形の辺と円の直径の関連付け	80.6%	%

(全) H21: B 1(3) (県) H27: 10(1)

◇：条件に当てはまる図形の判断をすること〔3(1)〕

設問3(1)の正答率は72.9%で基準に到達している。正方形や長方形をかいたり作ったりするなどの算数的活動を通して、構成要素に着目して図形の特徴を捉えることができているためと考えられる。今後も、図形の性質を捉えられるようにするために、折る、重ねる、敷き詰めるなどの算数的活動を充実させることが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3	(1) 図形の構成	72.9%	%

(全) H21: A 5(2) (県) H17: 2(2) (P) 2009 小2～3

【数量関係】 (県平均正答率：59.9%) (学校正答率： %)

▽：思考モデルから解決方法を読み取り、他の場合へ適用すること〔5(4)〕

この設問の正答率は64.6%で、十分とはいえない。複数の情報の中から必要な情報を選択し、示されたモデルを場面に応じて適用することに課題がある。指導に当たっては、次のようなことに留意する必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5	(4) 思考モデルから解決方法を読み取り、他の場合への適用	64.6%	%

(全) H29: B 2(1) H23: B 1(1) (県) H25: 4(3)

- ・児童自らが複数の情報を整理し、問題解決のために必要な情報を選択する活動を充実すること
- ・複数の情報を整理する場面では、問題文と表などを関連付けながら解釈する活動を位置付けること

▼：グラフの読み取りを根拠として正しくない理由を説明すること〔8(2)〕

設問8(2)については、p.16 参照。指導に当たっては、次のようなことに留意する必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
8	(2) グラフの読み取りを根拠とした正しくない理由の説明	25.0%	%

(県) H27: 事例2 H29: 事例2

(全) H28: B 4(3)

- ・グラフの1目盛りの大きさに着目させ、正確に事実を読み取らせる活動を充実すること
- ・複数のグラフの比較を通して、それぞれのグラフから読み取った事実を根拠に、事柄を正しく判断したり、批判的に考察したりする場を意図的に設定すること
- ・グラフから読み取った事実（1目盛りの大きさと棒の長さが表している数値）を根拠に、判断した理由を過不足なく説明する活動を充実すること

指導法改善のポイント

- 帰納的な考え方をういてきまりを読み取り、表現する活動を充実すること (→ 事例1)
- グラフを批判的に考察し、情報を正しく読み取り、示された事柄に対して判断した理由を、言葉や数を用いて表現する活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条 + 3

ア 事例1

帰納的な考え方をういてきまりを読み取り、表現する活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
6 (2)	数と計算	いくつかの場合からきまりを見いだし、説明することができる	数学的な考え方

⑥ 1～5までの数字が書いてあるカードが1まいずつあります。そのカードを使って下の【計算のしかた】で計算をします。あとの問いに答えましょう。

【計算のしかた】

1 2 3 4 5

この中から2まいをえらんで、2けたの整数を2つつくります。

たとえば、1 と 2 をえらぶと、12と21ができます。

そして、できた2つの整数をたします。

$12+21=33$ 答えは 33 です。

また、2 と 3 をえらんで、同じように計算すると、次のようになります。

$23+32=55$ 答えは 55 です。

(2) この【計算のしかた】で2つの整数をたした33、55、88という答えには、どんなきまりがありますか。

「十の位」「一の位」という言葉を使って解答用紙に書きましょう。

正答例	誤答例	
(答えは) 十の位の数と一の位の数が同じ (になる)	・十の位と一の位の数をたす ・十の位から計算して、次に一の位を計算している	
正答率	誤答率	無解答率
55.9%	31.2%	12.9%

② 指導法改善に向けて

⑥(2)は、24年度⑨(2)と同一の趣旨の設問であり、正答率は、55.9%と不十分である。24年度と比べて、正答率は17.6ポイント上昇しているが、無解答率は2.3ポイント増加しており、きまりを見いだすことや、見いだしたきまりを数学的な用語を用いて表現することに依然として課題がある。要因としては、帰納的に考察する学習活動や、見いだしたきまりを数学的な用語を用いて表現させる学習活動が十分に行われていないことが考えられる。

指導に当たっては、帰納的な考え方をういる経験を積むために、幾つかの事例を考察してそれらの共通性(きまり)を見いだし、見いだしたきまりを表現させる学習活動を意図的に設定することが必要である。また、どのように考えるときまりを見つけることができたのかを振り返り、「あつめる」「みつける」「たしかめる」「まとめる」という学習過程を意識させ、論理的な思考の一つである帰納的な考え方を、問題解決に使える思考方法として身に付けさせることが大切である。さらに、きまりに着目した発言を価値付けたり、何に着目するときまりを見いだせたのかを振り返ったりすることで、自らきまりを見いだそうとする態度を育むことも必要である。

③ 改善事例 第3学年「帰納的な考えを用いてきまりを見いだす」

1 指導のねらい

複数の具体的な数について、帰納的な考えを用いてきまりを見いだし説明できるようにする。

2 具体例

(1) 帰納的な考えを用いて□にあてはまる数のきまりを見いだす活動

①～⑤のカードから2まい選んで、2けたの整数を2つつくります。

②と③を選ぶと、23と32という2けたの整数ができます。

次に小さい方の数23にある数□をたすと、大きい方の数32になります。□にあてはまる数はいくつですか。

②と③を選ぶと、 $23 + \square = 32$ $32 - 23 = 9$ □にあてはまる数は9になります。

①あつめる…複数の具体例を集める



3と4を選ぶと、34と43ができる。
 $34 + \square = 43$ $43 - 34 = 9$ だから、
 □にあてはまる数は9になるよ。

3と5を選ぶと、35と53ができる。
 $35 + \square = 53$ $53 - 35 = 18$ だから、
 □にあてはまる数は18になるよ。



②みつける…きまりを見いだす



選んだカードは違うけど、答えが同じになる場合があるね。□にあてはまる数が9になる2つの整数には、どんなきまりがありそうですか？

4と5を選ぶと、□にあてはまる数は9だ。
 2と5を選ぶと、□にあてはまる数は27になるね。



大きさが1ちがうよ。



【きまりを見いだす】

複数の数値の関係（大小・和・差・倍など）に着目させることが大切です。そのために、子どもがきまりを見いだせるよう、「この数とこの数に目を付けるとどんなことに気付きますか」などの視点を焦点化する発問や子どもの気付きを促す構造的な板書の工夫が大切です。

③たしかめる…別の具体例できまりを確かめる



大きさが1ちがうほかのカードを選んでも、見つけたきまりは成り立つかな？

「1と2」や「2と3」を選んだときも、□にあてはまる数は9になるよ。ということは、見つけたきまりは成り立つね。



④まとめる…数学的な用語を用いて表現する



「十の位」「一の位」という言葉を使ってまとめましょう。



□にあてはまる数が9のとき、2まいのカードを選んで作った2けたの整数の「十の位」と「一の位」の数のちがいは1になる。

【数学的な用語を用いて表現する】

子どもの素朴な表現を受け入れつつ、数学的な表現に洗練することが大切です。洗練後には、算数の用語を用いると事象を簡潔に表現できるよさを実感できる場を設定します。まとめる段階では、「あつめる」「みつける」「たしかめる」「まとめる」の学習過程を振り返る活動を位置付けます。また、必要に応じてその関係が成り立つわけについて図を基に考察する活動の設定も考えられます。

(2) 条件を変えて考える活動



「十の位」と「一の位」の数のちがいが、2のときや3のときは、どうなるかな？

① あつめる

①と③では $13 + \square = 31$, □は18
 ②と④では $24 + \square = 42$, □は18



② みつける

ちがいが2のときは、答えはいつも18になりそうだ。

③ たしかめる

③と⑤でも、 $35 + \square = 53$, □は18
 やっぱり成り立つよ。

④ まとめる

「十の位」と「一の位」の数のちがいが2のとき、2まいのカードを選んで作った2けたの整数のちがいは18になる。

(3) 帰納的な考えを用いて問題解決する活動例

【第3学年】「カレンダーのたてにならんだ3つの数をたすと、答えは真ん中の数の3倍になっている。」

カレンダー						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		



「たてにならぶ3つの数ならば、カレンダーのどこでも同じことがいえるの？」

・ $2 + 9 + 16 = 27$ $9 \times 3 = 27$
 ・ $4 + 11 + 18 = 33$ $11 \times 3 = 33$

H27年度基礎学力調査問題参照

イ 事例2

グラフを批判的に考察し、情報を正しく読み取り、示された事柄に対して判断した理由を、言葉や数を用いて表現する活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
8(2)	数量関係	グラフから読み取った数値を根拠に、正しくない理由を説明することができる。	数学的な考え方

8 4年1組のえりさんと、4年2組のこうじさんは、学級新聞を作るために、それぞれのクラスみんなにすきなきゅう食のメニューを1つきいて、それぞれの人数を調べ、右のぼうグラフのようにまとめました。次の問いに答えましょう。

(2) えりさんは、4年1組と4年2組のぼうグラフを見て、次のように言いました。

カレーライスと答えた人数を表すぼうの長さをくらべると、4年1組のほうは4年2組より長いです。
だから、カレーライスがすきな人数は、4年1組のほうが4年2組より多いです。



正答例	誤答例	
4年1組のグラフの人数を表す1めもりは1人で、4年2組のグラフの人数を表す1めもりは2人です。4年1組でカレーライスがすきな人数は9人で、4年2組でカレーライスがすきな人数は14人です。カレーライスがすきな人数は、4年2組のほうが多いからです。(4年1組のほうが少ないからです。)	4年1組のグラフの人数を表すめもりが0, 5, 10で、4年2組のグラフの人数を表すめもりが0, 10, 20だからです。 4年1組のグラフの人数を表す1めもりが1人で、4年2組のグラフの人数を表す1めもりが2人だからです。	
正答率 25.0%	誤答率 66.9%	無解答率 8.1%

② 指導法改善に向けて

8(2)の誤答については、グラフに表示されている数値のみに着目しているものや、1目盛りの大きさのみを根拠としているものなどが見られた。要因としては、グラフの1目盛りの大きさに着目して棒の長さが表す数値を読み取ること、棒の長さが表す数値を比較し判断すること等、課題に応じて根拠を満たした説明をする活動が不十分であることが考えられる。複数の数量が表されているグラフは、日常生活や他教科の学習でも扱われるものであり、的確にグラフを読むための指導の充実が求められる。

指導に当たっては、1目盛りの大きさを基に数値を的確に読み取る活動や複数のグラフを比較して1目盛りの大きさやその違いに着目して数値を読み取る活動を通して、判断したことの根拠となる事柄を過不足なく表現できるように指導することが大切である。

③ 改善事例 第3学年「ぼうグラフと表」

1 指導のねらい

棒グラフを的確に読み取り，批判的に考察することができるようにする。

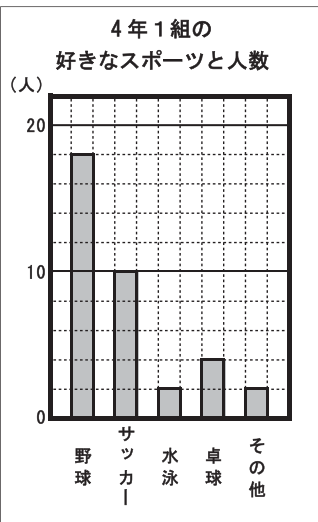
2 指導例

1つのグラフから数値を読み取ったり，複数のグラフを比較させたりするときの指導方法について教えてください。



若手先生

(1) 1つの棒グラフから，1目盛りの大きさを基に数値を読み取る学習活動



ベテラン先生

まずは，1つの棒グラフを提示し，1目盛りの大きさに着目させることが大切です。

どのように着目させればよいですか。



若手先生



ベテラン先生

「野球が好きだと答えた人数と，サッカーが好きだと答えた人数の違いは何人ですか。」と問うことで，1目盛りの大きさと棒の長さに着目させることができます。

「8人です」と答えた児童には「野球はサッカーより4目盛り多いのにどうして8人なのですか」と問い返すことができますね。



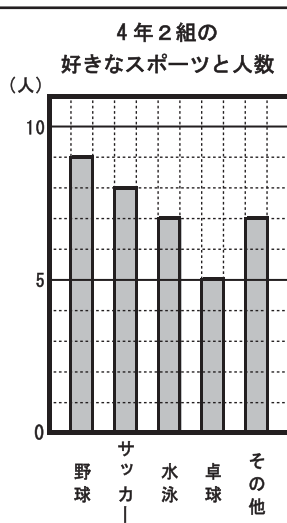
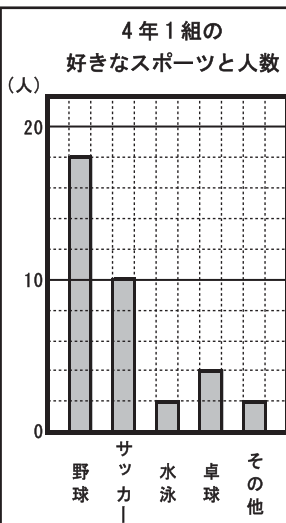
若手先生



ベテラン先生

グラフから的確に数値を読み取るためには，1目盛りの大きさとグラフの棒の長さに着目する必要性に気付かせることが大切です。

(2) 複数のグラフを比較し，批判的に考察する学習活動



ベテラン先生

次に，左のように2つの棒グラフを提示します。どのような発問が考えられますか。

「4年1組と4年2組の野球の棒の長さが同じなので，人数も同じですね。」という発問が考えられますね。



若手先生



ベテラン先生

そうですね。グラフの棒の長さが同じ場合には，「棒の長さが同じでも，1目盛りの大きさが違うので人数は同じではありません。」と説明できるように指導することが大切です。



ベテラン先生

では，グラフの棒の長さの違いに着目させ，「サッカーは4年1組より4年2組のほうの棒の長さが長いので，人数も多いですね」と発問することで，どんなことに気付かせることができますか。

「棒の長さだけでは人数の大小を比較することができない」ということに気付かせることができます。そのためには，1目盛りの大きさの違いだけではなく，それをもとに読み取った人数も根拠として表現できるように指導する必要がありますね。



若手先生



問題解決の過程を振り返り，判断の根拠を過不足なく説明することの大切さについて，児童が実感をもって理解できるようにする場を設定することが大切です。
他の指導例としては，棒の長さの倍関係に着目し比較させる活動を設定することも考えられます。

小学校 第6学年

「社会」

小学校第6学年 社会

県平均正答率	学校正答率
64.4%	%

(1) 全体的な傾向の分析・考察

30年度の平均正答率は64.4%で、29年度より5.5ポイント下がり、到達状況は十分とは言えない。複数の情報を比較・関連付けて考察し、社会的事象の特色や相互の関連、意味などを適切に表現すること、資料からの情報を基に社会的事象について問いをもち、学習問題として設定することについては依然として課題が見られ、指導法の改善が必要である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【地域学習】 (県平均正答率：63.5%) (学校正答率：%)

○：地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事を保存・継承するための工夫や努力について、資料を基に選択・判断すること〔3(1)(2)①〕

設問3(1)(2)①の正答率は80%を超え、概ね良好である。

引き続き、観察や調査・見学などの体験的な活動やそれに基づく

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3(1)	調べる方法	89.0%	%
3(2)①	調べたことの整理 (工夫や努力)	89.5%	%

表現活動を指導計画に適切に位置付け、児童が調べたことや考えたこと、選択・判断したことを表現する力を育てていくことが大切である。

◇：石川県全体の地形や交通網の様子などを理解し、地図帳を利用して必要な情報を読み取ること〔1(1)(2)(3)(4)〕

設問1の平均正答率は70%を超え、基準に到達している。今後も、地図帳を使用する学習活動を意図的に取り入れ、方位や地図記号、色、縮尺の目盛りなどについての知識・理解を深め、問題解決のために地図帳を効果的に活用する技能を高めていくことが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1(1)①	石川県の自然(能登島)	62.7%	%
1(1)②	石川県の交通(小松空港)	91.6%	%
1(1)③	石川県の市町(加賀市)	70.8%	%
1(2)	石川県の地形(白山の高さ)	82.9%	%
1(3)	地図記号(史跡)	59.6%	%
1(4)	縮尺と方位の活用(七尾市)	75.9%	%

▼：資料から読み取った情報を基に社会的事象の相互の関連や意味などを考察し、適切に表現すること〔6(2)〕

設問6(2)については、p.22参照。指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
6(2)A	県と市町の取組 (県の浄水場の広がり)	21.7%	%
6(2)B	県と市町の取組 (安定した供給)	10.5%	%

(県) H29:事例1

(県) H29:6(3) H28:5(4) H27:4(3)

- ・資料が表している情報を表題や数値などに着目して丁寧に読み取らせること
- ・複数の情報を比較・関連付け、社会的事象の特色や相互の関連、意味について考えさせること

【産業と国土】

(県平均正答率：65.1%) (学校正答率： %)

○：国土の環境が人々の生活と密接な関係をもっていることについて、資料を基に考察したことを適切に表現すること〔4(2)〕

設問4(2)B、Cは、国土の環境が人々の生活と密接な関係をもっていることについて、資料を基に考察したことを適切に表現することを問う問題である。正答率は概ね良好である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4(2)B	沖縄県の伝統的な家屋(特色)	93.1%	%
4(2)C	沖縄県の伝統的な家屋(防災)	79.7%	%

(県) H25: 2(5)

資料から読み取った情報を基に考察し、適切に表現する授業が増加していることが要因であると考えられる。今後も児童の発達段階に沿って、意図的・計画的にこのような場面を設定することが大切である。

▼：遠洋漁業の生産量減少の理由について、資料を基に考察したことを適切に表現すること〔5(3)②〕

設問5(3)②は、不十分である。誤答としては、日本の遠洋漁業の船が、「200海里水域内で魚の取れる量を制限し始めた」など、外国の200海里水域内で漁を制限され始めたことに言及できていないものや、「200海里水域」「魚」という言葉を使うという条件を満たすことができていないものが多かった。これらの要因としては、200海里水域についての理解が不十分で、資料2の内容を的確に捉えることができなかったことや、考察したことを条件に合わせて適切に説明できていないことが考えられる。指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5(3)②	200海里水域の影響	26.7%	%

(県) H29: 5(6), H28: 5(6), H27: 3(3)

- ・既習の学習用語や資料からの情報を活用して考えを説明し、話し合う学習活動を充実させること
- ・課題について話し合ったことを基に、条件に合わせて文章でまとめる学習活動を充実させること

▼：資料を適切に関連付けて学習問題として表現し、解決の見通しをもつこと〔5(3)③〕

設問5(3)③については、p.24参照。指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5(3)③	学習問題の設定	2.4%	%

(県) H28, 29: 事例2

(県) H29: 5(3)

- ・資料の見せ方・提示順等を工夫し、気付きや疑問を出し合い、課題設定につなげること
- ・既習を想起して予想を立て、調べる視点を明確にすること

指導法改善のポイント

- 資料から読み取った複数の情報を比較・関連付け、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考察して適切に表現する力を育成すること (→ 事例1)
- 社会に見られる課題を把握して学習問題を設定し、解決の見通しをもって追究する力を育成すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条 + 3

ア 事例1

資料から読み取った複数の情報を比較・関連付け、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考察して適切に表現する力を育成すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
6 (2)	地域学習	水道事業が地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることについて、資料を基に考察したことを適切に表現することができる。	- 社会的な思考・判断・表現 - 観察・資料活用の技能

(2) けんじさんは、資料1と資料2をもとに、石川県と、市や町の水道に関する取り組みについて考え、ノートにまとめました。ノートのAとBにあてはまる言葉を、それぞれ書きましょう。

【けんじさんのノート】

石川県内で水道を使う人の割合が、1980年からすでに90%をこえているのは、それぞれの市や町が管理する浄水場などの水道施設が当時から整備されていたためだと考えられる。

それなのに、1980年から2017年にかけて、
 A のは、
 市や町の水道の水が足りなくなった時や、市や町の水道が止まった時でも、
 B からである。

【資料1】 石川県内で水道を使う人の割合

【資料2】 石川県が管理する浄水場の水が届く地域の変化(色が付いた部分)

(資料1・2ともに石川県資料より作成)

正答例		誤答例	
A	・石川県が管理する浄水場の水が届く地域を広げている	A	・石川県内で水道を使う人が増えている
B	・県の浄水場の水を送ることができる ・安定して水を届けることができる ・県と協力して、浄水場の水を送ることができる	B	・石川県が管理する浄水場が増えている ・他の市や町の浄水場から水が届く ・対応できる、整備できる 〈「どのようなことに」「何が」がわからないもの〉
正答率(準正答率)		誤答率	無解答率
A	21.7% (5.0%)	A 50.6%	A 27.7%
B	10.5% (1.3%)	B 55.0%	B 34.5%

② 指導法改善に向けて

Aの設問では、誤答が多かった要因として、資料1からのみ情報を読み取っていたり、資料2の表題を基に資料が表している情報を的確に捉えられなかったりしたことが考えられる。

Bの設問では、誤答が多かった要因として、市や町と県の浄水場の区別ができていないことや、飲料水を供給している事業が果たす役割など社会的事象の意味について考察できていないことが考えられる。

以上のことから、日頃の学習指導においては、資料が表している情報を表題や数値などに着目して丁寧に読み取らせていくことが必要である。また、読み取った複数の情報を比較・関連付け、社会的事象の特色や相互の関連、意味について考え、適切に表現できるような指導方法を工夫していくことが大切である。

③ 改善事例 第4学年「火事からくらしを守る」

1 指導のねらい

資料から読み取った複数の情報を比較・関連付け、社会的事象の特色や相互の関連、意味について考察して適切に表現できるようにする。

2 具体例 ※消防署見学まとめ後の授業

(1) 既習や資料からの情報を基に、問題意識を高め学習問題をつくる。

【資料1】

火事の現場

(絵資料)

消防士さんは毎日、消火や救助の訓練をしていたよ。

火事の現場にすぐかけつけるために、消防車や道具を点検していたよ。

消防士さん以外にも、火事の現場で働いている人がいるよ。

消防士さん以外の人は、火事が起きた時、どんなことをしているのかな。

【学習問題】＜実際に火事が起きた時、どのような活動を行っているのかな？＞

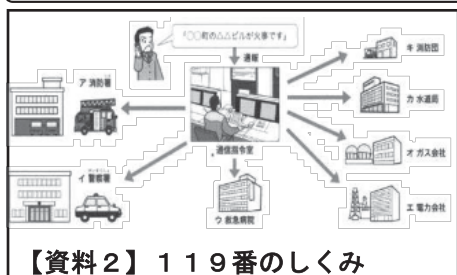
(2) 学習問題について予想し、資料からの情報を

基に自分の考えをもち、交流する。

警察の人は、見に来た人が火事にまきこまれないように警備していると思います。



ポイント1：資料が表している情報を表題等に着目して丁寧に読み取る。



【資料2】119番のしくみ

119番に電話をすると、消防局の通信指令室というところにつながっている。

消防署につながるんじゃないんだね。通信指令室には機械がたくさんあるよ。

【資料3】

通信指令室で働く人の話

- ・現場に近い消防署から出動命令
- ・他にも連絡 等

119番の電話で通信指令室から病院や電力会社、ガス会社、消防団にも連絡をするよ。

通信指令室からは、火事の場所や大きさに合わせて、早く火を消すために、どの消防署にどんな連絡をするか決めているね。

ポイント2：資料から読み取った複数の情報を比較・関連付け、相互の関連や従事する人々の働きについて考える。



どうして、消防署以外のところにも連絡しているのかな？

警察署

火に近づくと危ないから、交通整理をするよ。安全が大事。

電気やガスは火がうつったら危ないから早く止めるよ。

電力会社・ガス会社

早く火を消すためには、消防車や人がたくさん必要だ。地域の人も協力している。

消防団

早く火を消すためには水がたくさん必要だね。

水道局

けがした人を受け入れてもらうためかな。

病院

消防署だけでなく、いろいろなところが協力して早く安全に消火できるように工夫しているからじゃないかな。

消防署以外のところも協力して消火できるように、「通信指令室」から関係するところへすぐに連絡できる仕組みがつけられていると思うよ。

(3) 学習問題について、交流を基に自分の考えをまとめる。

ポイント3：学習した用語など、必要な言葉を使って適切な文章で表現する。



話し合ったことを基に、まとめに必要なキーワードを選ぼう。そして、()の中に、言葉がつながるように気を付けてまとめを書こう。



「早く」「安全に」「通信指令室」「関係するところ」「連絡」「協力」という言葉を使ってまとめたいです。

【まとめ】火事が起きた時は、(通信指令室から関係するところに連絡が届き、それぞれが協力して早く安全に消火をしたり、けがをした人を助けたりする) 活動を行っている。

イ 事例2

社会に見られる課題を把握して学習問題を設定し、解決の見通しをもって追究する力を育成すること。

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
5(3)③	産業と国土	漁業別生産量の変化と、働く人の数の資料を基に、水産業が抱える問題を見だし、学習問題として表現することができる。	- 社会的事象への関心・意欲・態度 - 社会的な思考・判断・表現

③ みきさんのクラスでは、資料1と資料3について話し合ったことをもとに、学習問題（課題・めあて）をつくり、予想をノートにまとめました。あとのノートのCにあてはまる言葉を書きましょう。

【資料3】
漁業で働く人の数
(万人)
60
40
20
0
1970 1990 2010
(年)
〔「農林水産省統計」より作成〕

けん：資料1からは、日本の漁業別生産量がどんどん減ってきていることが分かるよ。
みき：資料3からは、漁業で働く人も減ってきていることが分かるわ。
ちか：このまま、漁業で働く人がいなくなったら、漁業の生産量がもっと減っていくかもしれないね。
みき：でも、資料1の養殖業は、少しずつ生産量が増えているよ。
先生：みなさん資料からたくさんのことに気付きましたね。それらをもとに今日の学習問題を決めましょう。

【みきさんのノート】

○学習問題 日本の漁業で働く人は、
のだろう。 C

○予想
・海の中の魚のいる場所が分かる機械を使っている。
・育てた魚を川や海に放流している。

正答例	誤答例	
(日本の漁業で働く人は、) ・生産量を増やすために、どのような工夫をしている ・どのようにして生産量を増やしている ・どのようにして水産業を守ろうとしている (のだろう。)	(日本の漁業で働く人は、) ・なぜ減っていく 〈資料3だけを読み取ったもの〉 ・減っているのに、養殖業は増えている 〈会話をそのまま使ったもの〉 (のだろう。)	
正答率（準正答率）	誤答率	無解答率
2.4% (0.2%)	80.9%	16.7%

② 指導法改善に向けて

誤答例のように、1つの資料から読み取った情報のみを記述したものや、【みきさんのノート】に示されている予想に見合った学習問題を設定できていないものが多かった。要因として、気付きや疑問を出し合い、話し合いを通して学習問題を設定していく経験や、設定した学習問題について予想したり、調べ方を考えたりしながら、問題解決への見通しを立てたりする経験が不足していることが考えられる。

以上のことから、日常の学習において、資料の見せ方や提示順などを工夫し、児童が気付きや疑問を出し合って学習問題を設定できる授業を充実させる必要がある。また、既習や生活経験を基に予想させたり、調べる視点を明確に示したりして、児童が問題解決の見通しをもって学習できるように指導方法を工夫していくことが必要である。

③ 改善事例 第5学年「自動車をつくる工業」

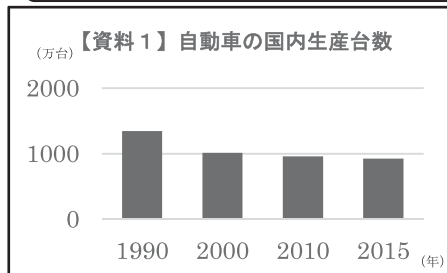
1 指導のねらい

複数の資料から読み取った情報をもとに学習問題を設定し、解決の見通しをもって追究することができるようにする。

2 具体例

(1) 自動車の国内の生産台数と現地生産台数の変化の資料を関連付けて話し合う。

ポイント1：資料の提示順などを工夫し、気付いた点や疑問点を話し合わせ、学習問題をつくる。



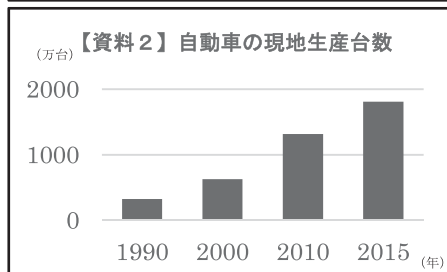
資料1を見てください。自動車の国内生産台数は1990年以降どのように変化していますか。

1990年には約1300万台生産していたのに2015年には約900万台に減っているね。



いろいろ工夫して生産していたのに、売れなくなっているのかな。

◆思考するための視点を明確にして、話し合わせること



資料2を見てください。「現地生産」というのは、日本の自動車会社が外国に工場をつくって自動車を生産することを言います。生産台数は1990年以降どのように変化していますか。

1990年と2015年を比べると約5倍に増えているね。



海外で生産すると何かいいことがあるのかな。

◆授業のねらいに迫る学習問題とすること

【学習問題】〈どうして、国内の生産台数が減っているのに、現地生産台数は増えているのだろう。〉

(2) 学習問題に対する予想を話し合う。

ポイント2：既習を想起して予想を立てさせ、調べる視点を明確にする。

農業で働く人の数が減っていることを学習したよ。自動車を生産する人も減っていて、外国だと働く人が多いのかな。



自動車を外国で生産すれば日本から運ぶ輸送費はかからないね。



日本の自動車が外国で売れるから、外国の人のニーズに合わせて生産するようになったのかな。

働く人の問題

輸送

自動車づくりの工夫



これから調べるためには、みんなの予想の何に注目したらいいかな。



外国とのかかわりが重要じゃないかな。日本と外国を比較すると解決できると思うよ。

◆児童が問題解決の見通しをもって、協働的に追究できる学習過程を工夫すること

(3) 教科書や資料集を活用して調査活動を行い、得た情報を多角的に考察する。

ポイント3：複数の資料からの情報を比較・関連付け、共通点や関連性などについて話し合う。



現地の人々の働く場所ができて、お金も増えて、その国が豊かになるよ。日本の技術も伝わるんだね。

現地でつくると輸送も便利だし、早く自動車を届けることができるね。



現地でつくると、その国の人のニーズに合わせてつくれるね。

【資料3】

日本のある自動車会社の現地生産工場の地図

外国の生産工場は、世界に広がっていますよ。



(4) 学習のまとめをする。

【まとめ】自動車の現地生産台数が増えているのは、その国のニーズに応えた自動車を早く届けることができるから。また、現地の人々の働く機会が増えたり、技術が伝えられたり、その国の産業の発展に協力したりできるよさがあるから。

中学校 第3学年
「社会」「英語」

中学校第3学年 社会

県平均正答率	学校正答率
62.7%	%

(1) 全体的な傾向の分析・考察

30年度の平均正答率は62.7%で、29年度に比べ2.0ポイント下がり、十分とはいえない。世界を代表する大陸や海洋など基礎的な知識を理解することについては良好であるが、資料（グラフ・文献資料等）から読み取った複数の情報を関連付けて、地理的事象の働きや役割などを考察することや、歴史的事象の背景や影響などを説明することについては、依然として課題が見られ、指導法の改善が必要である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【地理的分野】 (県平均正答率:68.7%) (学校正答率: %)

◎:世界を代表する大陸や海洋の基礎的な知識を理解すること〔1(1)〕

設問1(1)A, Bは、世界のおもな大陸や海洋に関する基礎・基本を問う問題であり、良好である。1(1)Aは、28年度の類似問題と比べ1.1ポイント、Bは、24年度と比べ6.6ポイント上回っている。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1(1)A	六大陸 (ユーラシア大陸)	96.2%	%
1(1)B	三大洋 (大西洋)	88.4%	%

(県) H24: 1(1)A H28: 1(1)A

引き続き、世界の諸地域の学習においては、地球儀、世界地図、地図帳、衛星写真などを意図的・計画的に活用し、基礎的・基本的な知識の定着を図ることが大切である。

◇:北海道の農業について、複数の資料を関連付けて学習課題として表現すること〔4(4)〕

設問4(4)は、29年度の類似問題と比べ33.7ポイント上回り、基準に到達している。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4(4)	北海道の農業 (学習課題)	78.0%	%

(県) H29: 4(6)

引き続き、単元などの内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、「社会的な見方・考え方」を働かせることで、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連などを考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする学習が求められる。指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

- ・資料から読み取った複数の情報を比較・関連付けて、気付いたことや疑問に思ったことなどについて話し合い、学習課題を設定する学習を充実させること
- ・学習課題に対し、既習事項や生活経験等を基に予想を立て、見通しをもたせる学習を充実させること

▼:工業地域の特色について、資料から読み取ったことを基に考察し表現すること〔4(5)②〕

設問4(5)については、p.30参照。指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4(5)②	日本の工業 (工業地域の立地の特色)	31.3%	%

- ・これまでに習得した知識を活用して、資料から読み取った情報を基に多面的・多角的に考察したことを適切に表現する学習を充実させること

【歴史的分野】

(県平均正答率:57.1%)(学校正答率:

%)

○:律令国家の確立に至るまでの過程について、歴史的事象を理解すること〔2(2)①〕

設問2(2)①は、聖徳太子の政治改革について問う問題であり、概ね良好である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2(2)①	歴史上の事象 (冠位十二階)	83.6%	%

引き続き、単元で理解・定着させたい歴史的事象や人物をリストアップして生徒に提示したり、単元末に歴史的事象を説明させたりする学習などを充実させることが大切である。

▼:参勤交代が外様大名に与えた影響について、資料から読み取ったことを基に考察し説明すること〔3(6)〕

設問3(6)は、複数の資料を基に、参勤交代の制度が外様大名の藩の財政に与えた影響を問う問題であり不十分である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3(6)	歴史上の事象 (参勤交代の影響)	38.5%	%

(県) H26:5(5)

江戸までの道中や江戸での生活にかかる外様大名の財政支出の割合が高くなることのみを記述した誤答が多く見られ、大名の配置を関連付けて参勤交代の影響について考察し表現することができていなかった。複数の資料からの情報を基に、題意に応じて考察し適切に表現することについては依然として課題が見られる。その要因としては、資料が複数提示されているが、個々の資料からの情報の読み取りに留まり、情報を関連付けて課題について考える学習経験が十分ではないことが考えられる。指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

- ・複数の資料を基に考察する場面では、個々の資料からの情報を読み取った後、課題について考えるために、情報を関連付ける働きかけや話し合いを十分に行うこと
- ・個のまとめを全体場で交流した後、再度、自分の考えの根拠や表現内容について検討すること
- ・まとめを再構成したものを適切に見取り、今後の指導と評価に生かすこと

▼:近代の基礎・基本となる歴史的事象について、資料や既習の知識を基に考察すること〔5(2)②〕

設問5(2)②は、p.32 参照。指導に当たっては、次のような学習を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5(2)②	歴史上の事象 (インド大反乱)	35.2%	%

(県) H25:事例2

- ・複数の資料からの情報を比較・関連付けて考察させ、日本国内の出来事の背景にどのような世界の動きが影響しているのかなど、事象相互の因果関係について説明する学習を充実させること

指導法改善のポイント

- 習得した知識を活用して、資料から読み取った情報を基に多面的・多角的に考察したことを適切に表現する力を育成すること (→ 事例1)
- 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解する力を育成すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条 + 3

ア 事例1

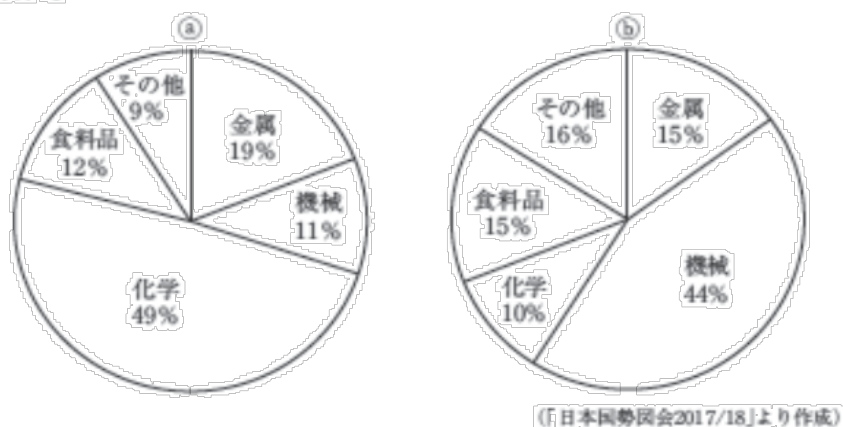
習得した知識を活用して、資料から読み取った情報を基に多面的・多角的に考察したことを、適切に表現する学習を充実させること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
4(5)②	地理的分野	工業地域の特色について、資料から読み取ったことを基に考察し表現することができる。	・社会的な思考・判断・表現 ・資料活用の技能

② 資料4は、京葉工業地域と北関東工業地域の製造品出荷額等の構成を示したものである。③のグラフを京葉工業地域のグラフと考えることができる理由を、京葉工業地域の立地に着目して書きなさい。

【資料4】



正答例		誤答例	
・原料となる石油などの輸入に適した臨海部にあることから、内陸部の北関東工業地域より化学工業が発達していると考えられるから。		・京葉工業地域の化学の割合が高く、北関東工業地域の機械の割合が高いから。 ・海に近く原料の輸入に便利だから。	
正答率（準正答率）		誤答率	無解答率
31.3%（2.0%）		49.6%	19.1%

② 指導法改善に向けて

この設問は、京葉工業地域と北関東工業地域の特色について、習得した知識を活用して、資料から読み取った情報を基に多面的・多角的に考察したことを適切に表現することを問う問題である。正答率は31.3%であり不十分である。また、無解答率も19.1%という結果であった。

日本の工業について、石油などの輸入に適している臨海部で化学工業が発達していることなど、基礎的・基本的な知識は反復して学習しているが、習得した知識や資料から読み取った情報を関連付けて考察し適切に表現する学習活動が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、これまでの学習内容（小学校も含む）を事前に確認することや、日常の授業において、用語・語句などを含めた個別の事実などに関する知識の習得のみならず、それらを比較・関連付けなどして考察・構想し、課題を追究したり解決したりする活動の工夫などが求められる。

③ 改善事例 第2学年「中部地方」

1 指導のねらい

習得した知識を活用して、資料から読み取った情報を基に多面的・多角的に考察したことを適切に表現する力を育成する。

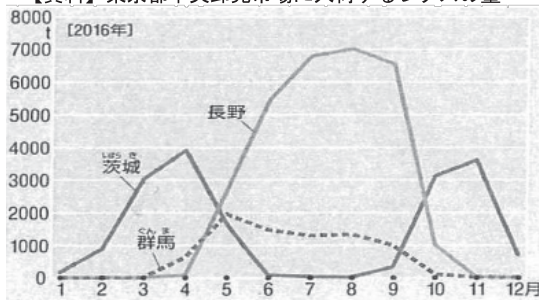
2 具体例 **学習課題** <なぜ、夏に長野県のレタスの出荷量が増えるのだろうか>

① 資料の読み取りから、生徒が学習課題を設定する学習



長野県から東京都中央卸売市場に入荷するレタスの入荷量の特徴は何か？

【資料】東京都中央卸売市場に入荷するレタスの量



年間を通して長野の入荷量が一番多いね。



入荷量に違いはあるけど、群馬と長野では収穫時期が同じだね。



よく見ると茨城と長野では入荷量の多い時期が重ならないようだね。



<なぜ、夏に長野県のレタスの出荷量が増えるのだろうか>にしよう。

② 複数の資料から読み取った情報を、既習の知識を生かし、解釈する学習



中部地方の自然環境と中部地方の産業の分布図から、どんなところでレタスが栽培されているのか説明してみよう。



飛騨山脈や木曽山脈の間の盆地の地域、松本市周辺で盛んに栽培されているようだわ。

そうだとしたら、標高の高いところで盛んに栽培されているのかな。



たしか、中央高地の気候は冷帯に似ていたわ。

気温と収穫量に何か関係があるかも。



学んだことも出てきたようだね。地図帳や資料集を使って調べてみよう。

③ 資料から読み取った情報を比較・関連付け、地理的事象の働き、役割について考察する学習

統計資料で調べると、群馬の年平均気温は14.6℃、茨城は13.6℃に対して長野は11.9℃でした。

さらに、産地の松本市を調べると8月の最高気温でも25℃を下回っていました。群馬や茨城では25℃以上でした。



産地の松本市は、群馬や茨城と比較すると、夏でも涼しいことがわかるわ。レタスの栽培に適切な気候なのね。この気候を利用して、他の産地の出荷量が少なくなる時期に出荷しているのね。



④ 地域的特色を、授業者の問い返しや既習の知識と結び付けて多面的・多角的に考察する学習



この画像【早朝にレタスを収穫している様子】を見てみよう。なぜ、農家の人たちは、早朝にレタスを収穫しているのかな。

そうだね。地図帳を見ると高速道路が整備されているよ。



朝早く収穫するということは、その日のうちに新鮮なレタスを消費地に届けられるわ。

中国・四国地方で勉強した、交通網の発達と暮らしや産業の変化は、レタス栽培でも当てはまらないかしら。



それでは、資料等から読み取った情報と今までの学習を結び付けて自分の言葉でまとめてみよう。



長野県は、東京・大阪・名古屋などの大都市と高速道路で結ばれていて、気候面だけでなく、地理的な面からも夏にレタスの出荷量が増えることが考えられるね。

◆地理的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉えさせること

◆地域の環境条件や地域間の結び付きなどと関連付けさせること

【まとめ】長野県では、中央高地の気候と大都市に短時間で出荷できる地理的条件を生かしているため、6月から9月にかけてレタスの出荷量が増えている。

イ 事例2

我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特徴を踏まえて理解する力を育成すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
5(2)②	歴史的分野	近代の基礎・基本となる歴史的事象について、資料や既習の知識を基に考察することができる。	・資料活用の技能 ・社会的事象の知識・理解

5 次の2つの条約について、地図や年表、資料を見て、あとの問いに答えなさい。

A 日米和親条約

第2条 下田・函館の港は、アメリカ船の食料や燃料など不足したものを、日本で調達することによって入港を認めること。

B 日米修好通商条約

第6条 日本人に対し法を犯したアメリカ人は、アメリカ領事裁判所にてアメリカの法律によって裁かれること。

(A) (B)ともに、一部を抜粋し、部分要約してある

(2) Bについて、次の①～③の問いに答えなさい。

② この条約を結んだころの世界のできごととして最も適切なものを、年表中のア～エから1つ選びなさい。

[年表]

年	おもなできごと
1688	イギリスで名誉革命が起きる……ア
1789	フランス革命が起きる……イ
1840	アヘン戦争が起きる……ウ
1857	インドの大反乱が起きる……エ

正答例	誤答例	
エ	ウ, イ, ア	
正答率 (準正答率)	誤答率	無解答率
35.2% (0.0%)	64.1%	0.7%

② 指導法改善に向けて

この設問は、新学習指導要領の歴史的分野の改訂の要点ウ「我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの一層の充実」を踏まえたものである。産業革命後のイギリスの世界進出やアヘン戦争における清の敗北等の世界的動向が日本の開国に影響していることを適切に捉えきれていない誤答が多く見られた。これは、世界の動きが日本の歴史にどのように影響しているかを考察する学習活動が不十分であることが要因と考えられる。

指導に当たっては、次のような計画的・意図的な指導が大切である。

- ① 世界の歴史上の動きが影響を及ぼした我が国の歴史的事象について、単元のどの事象が該当し、どのような問いを設定するかなどの見通しを立てる。
- ② 我が国の歴史的事象とつながりのある世界の歴史的事象について、その因果関係などを既習事項や資料を関連付けて考察する学習を充実させる。
- ③ ②の学習を踏まえ、我が国の歴史の流れを世界の歴史と関連付けて考察したことを表現する活動を設定し、評価する。

③ 改善事例 第2学年「開国の影響」

1 指導のねらい

我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解する力を育成する。

2 具体例 **学習課題** <江戸幕府はどのようにして滅亡したのだろうか>

① 資料の読み取りから、生徒が学習課題を設定する学習

【資料1】徳川慶喜が二条城で政権返還を告げている絵



資料1は、何をしているところかな。



徳川慶喜が朝廷に政権を返すことを話しているところだよな、小学校で勉強したよ。



約260年も続いた江戸幕府を、なぜ慶喜は終わらせたのかな？



<江戸幕府はどのようにして滅亡したのだろうか>にしよう。

② 追加資料を用いて、既習を生かしながら、歴史的事象の意味や背景について話し合う学習

資料2を見て、当時の人々の様子を考えてみよう。



【資料2】百姓一揆・打ちこわしの発生件数（グラフ）

1866年は、百姓一揆も打ちこわしも、大ききんときより件数が多いわ。



武士は、尊皇攘夷運動や倒幕運動の高まりがあったけど、百姓や町人も幕府に不満を持っていたのかな。

個人で考える



追加資料から、なぜ百姓や町人が不満を持ったのか考えよう。



物価の上昇で、生活がとても苦しくなったからかな。でも、なぜ物価が上昇したのかな？

【追加資料】

〈物価の推移〉
〈金の交換比率〉
〈貿易相手国〉
〈輸出入品とその割合〉

◆生徒が考察するための適切な根拠となり、授業のねらいに迫る資料であること

グループで考える



不満の原因は物価上昇のようだね。なぜ物価が上昇したのか考えよう。



外国と日本では、金と銀の交換比率が大きく異なるね。これだと、日本で金と銀を交換するだけで大きな利益が得られるから、日本の金が海外に流出してしまうね。



金が海外に流出すると、小判の質が落ちて価値が下がったことで物価が上昇したのね。



日本の最大の貿易相手国はイギリスだわ。日本が安い綿糸や綿織物、毛織物を輸入する一方で、多くの生糸を輸出していることがわかるわ。



安い輸入品は綿織物経営に打撃を与えたと思うよ。多くの生糸が輸出されたから国内の生糸は品不足になっただろうな。商人の買い占めもあったかもしれないね。

個人で考える



開国したことが当時の人々の様子に影響を与えたようだね。グループで話し合ったことを基に、学習のまとめを書こう。

◆日本の歴史と関連する世界の歴史を背景に、政治の展開、産業の発達、社会の様子など他の時代との共通点や相違点に着目して、日本の歴史を大きく捉えさせること

③ ①②の学習を活用して、学習課題について必要な情報を整理して自分の言葉で表現する学習

【まとめ】開国によって日本の経済が大きな影響を受け、百姓一揆と打ちこわしの増加や尊王攘夷運動と倒幕運動が高まる中、幕府は政権を朝廷に返し、江戸幕府が滅亡した。

中学校第3学年 英語

県平均正答率	学校正答率
53.9%	%

(1) 全体的な傾向の分析・考察

30年度の平均正答率は53.9%で、29年度より6.0ポイント下回った。聞くことの領域において、聞き取る情報量を増やしたことで、必要な情報を整理しきれず、適切に答えることができなかったことが要因の一つである。また、語彙や文法などの言語知識を活用しながら、場面や状況に応じて正しく書く力やまとまりのある内容の英文を適切に書く力については、依然課題が見られることから、指導法の改善が必要である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【聞くこと】 (県平均正答率:63.4%) (学校正答率: %)

◇:状況を判断し、英文の内容を正確に聞き取ること〔2〕

設問2の正答率は、75.7%であり、基準に到達している。「必要な情報を聞き取る」「話の概要や要点を捉える」といった目的に応じた聞き取り方の指導の充実を図る必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2	状況判断し短い英文の内容 (降りる人物)の聞き取り	75.7%	%

(県) H28:事例1

(県) H28~H29:2

▼:話しかけの内容に、適切に応じること〔3〕

設問3についてはp.36参照。今後は、次のような指導を充実する必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3	No.1 話しかけ(When did you start playing?)に応じること	49.1%	%
	No.3 話しかけ(How long did you stay there?)に応じること	51.8%	%

(県) H23~H27:2, H28~H29:3

- ・既習表現などを用いて、教師と生徒、生徒同士の意味のあるやり取りの場面を一層増やし、様々な応答を繰り返し使いながら、適切に応答できる力を高めること
- ・コミュニケーションの目的や場面、状況などの設定を明確にし、生徒が状況などを判断しながら話し手の意図を正しく理解し、相手の発話に応じたり、質問したりするなどの活動の機会を増やすこと

【読むこと】 (県平均正答率:55.5%) (学校正答率: %)

▽:言語の使用場面や働き、語句の役割に気を付けながら、短い英文を正しく理解すること〔5〕

設問5(3)はdidを選択した誤答が多く、(4)は会話の流れにふさ

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5	(3) be動詞を用いた英文の内容に対する応答の仕方の理解	44.9%	%
	(4) 言語の働き(考えや意図を伝える)に応じた英文の理解	49.0%	%
	(5) 言語の働き(相手の行動を促す)に応じた英文の理解	42.5%	%

わしい表現を判断できていない誤答が見られた。また、(5)については、how oftenの活用機会が少なかったことが考えられるため、正答率は42.5%にとどまった。全体としては、言語の使用場面や働き、語句の役割に気を付けながら短い英文を正しく読み取ることは、十分とは言えない。指導に当たっては、次のようなことに留意する必要がある。

(県) H23~H27:4, H28~H29:5

- ・疑問詞の用法が増えた際(howからhow many, how long, how oftenなど)は、再度文構造に着目させたり、関連のある表現を併せて指導したりするなどして、表現の幅を広げていけるようにすること

- ・新出表現については、必然性のある言語の使用場面や意味のある文脈の中で、文の意味と使われ方を捉えさせ、文の形式については言語活動を通して指導していくようにすること

【書くこと】 (県平均正答率：45.5%) (学校正答率：%)

▼：語順や語形に気を付けながら、場面や状況に応じて正しく書くこと〔6〕〔10〕

設問6(2)は28年度とほぼ同問で、正答率は6.4ポイント上昇したが、依然として30%台にとどまっている。(3)の前置詞句の後置修飾の文構造については、

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
6	(2) 主語＋動詞＋目的語＋目的語を用いた英文の語順	35.8%	%
	(3) 前置詞句の後置修飾を用いた英文の語順	46.0%	%
	(5) 疑問詞を用いた英文の語順	42.3%	%
10	① 状況に合う英文（動詞）への書きかえ	14.5%	%
	② 状況に合う英文（接続詞）への書きかえ	31.1%	%
	③ 状況に合う英文（動名詞・不定詞）への書きかえ	20.4%	%

徐々に改善は図られてきてはいるものの、正答率は46%

(県) H29: 事例1 H24: 事例2 H27: 事例2

と不十分である。(5)は疑問詞を用いた英文の語順である

(県) H24～H27: 5, 9 H28・29: 6, 10

が、Which pictureを1つの意味のまとまりとして捉えることができていない誤答が多く、語順や語形に気を付けながら正しく書くことについては不十分である。設問10については、p.38参照。今後は、次のような指導を充実させる必要がある。

- ・実際のコミュニケーションの場面で、既習の表現を繰り返し活用させ、言語材料の定着を図ること
- ・単元のゴールに向けて、単元全体を通して統合的な言語活動を適切に位置付け、聞いたり読んだりして得た知識などを自らの体験や考えと結び付け、話したり書いたりするなどの活動の充実を図ること

▼：自分の考えや気持ちが伝わるよう、まとまりのある英文を書くこと〔11〕

設問11は、語句例に加えて、内容例を示したこともあり、正答率は56.1%と不十分ではあるが、29年度からは8.0ポイント上昇した。また、準正答を除いた正答率も上昇した。

年度	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
29	お勧めの場所（県内）	48.1%	%
30	将来の夢	56.1%	%

文と文の順序や相互の関連に気を付けて、全体として一貫性のある文章を書く指導の充実が図られてきたことが要因と考えられる。しかし、文法面では1文に動詞が2つ混在するものや、語順が正

(県) H26: 事例2 H29: 事例2

確ではないもの、内容面では同形式や文のつながりがよくないために内容が十分に伝わらないものなどが、依然として見られた。今後も次のような指導の充実が必要である。

(県) H23～H27: 10, H28・29: 11

- ・「キーワードを整理して書くこと」「全体の構成を考えて書くこと」「文と文のつながりを示す語句を効果的に用いながら書くこと」に留意した指導を行うこと
- ・自己表現で活用できる基本文をウォームアップなどで繰り返し使わせ、定着を図るようにすること

指導法改善のポイント

□話し手からの質問を聞いて、その内容や意図を正しく理解し、適切に対応できる力を高めること (→ 事例1)

□単元のゴールに向けて、単元全体を通して統合的な言語活動を適切に位置付けながら、聞いたり読んだりして得た知識などを活用して表現する力を高めること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条 + 4

ア 事例1

話し手からの質問を聞いて、その内容や意図を正しく理解し、適切に対応できる力を高めること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
3	聞くこと	話しかけの内容を聞き取り、適切に応じることができる。	外国語理解の能力

3No.1<グラウンドで>	No.2<プールの前で>	No.3<学校で>
ア It's three now.	ア I swim here every Sunday.	ア In April.
イ When I was nine.	イ My favorite subject is P.E.	イ By plane.
ウ My father did.	ウ I want to go there.	ウ Two weeks ago.
エ With my friends.	エ I can swim as fast as you.	エ For a week.

(リスニング問題文)

【日本語】 この問題では、問題用紙に示されているそれぞれの場所で、英語が話されています。英語を聞き、No.1～No.3 の最後に話される英語に対する応答として最も適切なものをア～エの中から1つずつ選びなさい。

【英語】 No.1 A: You play baseball very well. When did you start playing?
No.2 A: Hi, Jane.
B: Oh, Ken.
A: Do you often come to this swimming pool?
No.3 A: Hi, Nancy. Did you enjoy your trip to Okinawa?
B: Yes. I had a very good time.
A: Sounds good. How long did you stay there?

正答例					誤答例				
No.1	イ	No.2	ア	No.3	エ	No.1	ア	No.2	ウ
正答率					誤答率				
No.1	49.1%	No.2	61.4%	No.3	51.8%	No.1	49.8%	No.2	37.6%

② 指導法改善に向けて

設問3は話し手からの質問の内容や意図を正しく理解し、適切に対応する力を見る問題である。疑問詞が用いられた質問に対して適切に応答する設問は、正答率が50%程度にとどまっており、不十分である。授業では、内容面を重視したやり取りが不足していることが懸念される。

今後の授業においては、教師と生徒、生徒同士の意味のあるやり取りの場面を一層増やすとともに、様々な応答を繰り返し使いながら、場面や状況に応じた適切な応答を身に付けていけるようにすることが大切である。

そのためには、内容に主眼を置いたやり取りを増やすとともに、コミュニケーションの目的や場面、状況などを明確にした上で、生徒が状況などを判断しながら、相手の意図を正しく捉え、相手の発話に応じたり、質問したりするなどの活動を工夫する必要がある。

③ 改善事例 第1学年（学習段階や学習状況に応じて）

1 指導のねらい

話し手からの質問を聞いて、その内容や意図を正しく理解し、適切に対応できる力を高める。

◇内容に主眼を置いたやり取りを通して、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりしながら、適切に対応できる力を付けさせる事例

2 具体例 NEW HORIZON1 Unit10 あこがれのボストン

(1) 教科書の内容を活用したやり取りの工夫

☆内容理解のQ&Aだけではなく、テキスト上の情報を基に推測させる問いや自己表現できる問いを尋ね、内容に主眼を置いたやり取りを生み出すようにする。

Where is Saki's favorite place in Boston?
What do you think?

She like Boston Common.

I see. You think she likes Boston Common. Why?

She can skate there.

Nice idea! Who has the same answer?
Or any other ideas?

How about you? Where is your favorite place?

It's my house because I can relax.
Thank you for asking me! Everyone,
please ask Bさん some questions.

ABC park!
How about you, Ms.○○?

Why?

What do you do there?

★相手が言ったことに対して関連する質問をしてやり取りを続けるようにする。

・・・複数の生徒とやり取りをした後、自己表現できる問いにつなげる。

・・・チャットなどの生徒同士のやり取りにつなげる。

指導のポイント

●文法事項などの error correction については適切な recast を行ったり、生徒からの気付きによる自己修正を促したりする。

●生徒の発言内容に対して、同意や共感したり、質問したりして、生徒のコミュニケーションへの意欲を高めるよう努める。

●ウォームアップなどで生徒同士のチャットを継続的に実施し、繰り返しやり取りを経験することで適切な対応力を高める。

●話すことのパフォーマンステストを計画的に実施し、単元で身に付けたコミュニケーションの仕方が別の場面や状況においても活用できるかを確認・評価する。(参考: H30全国学力・学習状況調査【英語予備調査】「話すこと」)

(2) 目的や場面、状況を明確にした活動の工夫

My sister will visit Ishikawa next winter.
Can you tell me a good place to see and a good restaurant for lunch in your city?

①個人で考えた後、ALTとやり取りしながら必要な情報を得る。

What is her favorite food?

It's seafood.

Does she like art?

Yes, she often draws pictures.

②ペアでどこを薦めるか相談し、付箋に薦めたい場所とその理由を記入し、それを基に発表する。 ※付箋は掲示したり、ALTに渡したりして、授業後も活用することもできる

Our city has a big museum. Your sister likes art.
So she can enjoy many works of art in the museum.

③さらにALTが内容に関する質問をすることで、やり取りにつなげる。

(3) フィードバックの実施

①生徒自身による振り返り

・タブレットなどで生徒同士のやり取りの場面を録画し、自分の使用した英語を客観的に聞き、場面に応じた適切な表現を確認したり考えたりする活動なども考えられる。

②他の生徒からの学び（ペアを変える、グループ交流など）

イ 事例2

単元のゴールに向けて、単元全体を通して統合的な言語活動を適切に位置付けながら、聞いたり読んだりして得た知識などを活用して表現する力を高めること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
10	書くこと	状況に合う英文（動詞・接続詞・動名詞／不定詞）に書きかえることができる。	・ 外国語表現の能力 ・ 言語や文化についての知識理解

10 次は、ホホワイト先生 (Ms. White) と絵美さん (Emi) との対話です。絵美さんは、対話の内容について、留学生のケイトさん (Kate) にメールで伝えました。《送信したメール文》の (①) ～ (③) にあてはまる英語をそれぞれ1～2語で書きなさい。

Emi : Good morning, Ms. White.

Ms. White : Good morning, Emi.

Kate will go back to America soon. This Saturday, I want to have a goodbye lunch for her from eleven o'clock. There are many beautiful flowers in Sakura Park, so let's have lunch there.

Emi : That sounds good. I'll tell her about that.

Ms. White : Oh, thank you. By the way, did you have a good time with Kate?

Emi : Yes, I enjoyed talking with her very much.

Ms. White : That's good.

(注) by the way : ところで



《送信したメール文》

To Kate,

We want to have a goodbye lunch for you this Saturday.

The lunch (①) at eleven.

We will have lunch in Sakura Park (②) there are many beautiful flowers there.

(③) with you was really fun.

Let's talk a lot this Saturday, too!

Emi

正答例	誤答例	
① will start / will begin / starts / begins	① from, is	
② because / as	② so, and, if	
③ Talking / To talk	③ Good time, To talking	
正答率 (準正答率)	誤答率	無解答率
① 14.5%(5.9%)	① 71.5%	① 14.0%
② 31.1%(1.9%)	② 50.4%	② 18.4%
③ 20.4%(2.8%)	③ 56.0%	③ 23.6%

② 指導法改善に向けて

設問10は、与えられた場面や状況の中で知識を活用し、適切に表現する力を見る問題であるが、正答率は不十分であり、無解答率も高い。授業では、聞いたり読んだりして得た知識などを活用し、話したり書いたりして表現させる統合的な言語活動が十分に行われていないことが懸念される。

今後、単元計画を作成する際は、単元で付けたい力を明確にして、単元のゴールを生徒と共有するとともに、そのゴールに到達するために単元の展開に配慮しながら、単元全体を通してインプットからアウトプットにつながる統合的な言語活動を計画的に設定することが求められる。

③ 改善事例 第2学年（学習段階や学習状況に応じて）

1 指導のねらい

単元のゴールに向けて、単元全体を通して統合的な言語活動を適切に位置付けながら、聞いたり読んだりして得た知識などを活用して表現する力を高める。

2 具体例 NEW HORIZON2 Unit5 Universal Design

単元構成のポイント

単元で付けたい力を明確にして、単元計画を立てましょう！



- ・単元のゴールから逆算した単元計画の作成
- ・インプットからアウトプットへつながる統合的な言語活動の設定
- ・アウトプットする内容の充実のために、インプット量を増やす工夫

単元のゴール

東京オリンピック・パラリンピックのスタッフとして働くことになりました。海外からの選手や旅行者に、快適に過ごしてもらうために、どんな工夫ができるのか自分の考えを提案しよう。

単元のゴールには、単元を通して聞いたり読んだりして得た知識をアウトプットできる活動を設定しましょう！

例：I think we should have many ramps. If there are many ramps in towns, people in wheelchairs can go to many places without any help. When travelers have suitcases, ramps are very useful. Everyone can be happy with ramps. What do you think?

- 1 選手や旅行者などがどんな不便を感じるのかを話し合う。
- 2 単元で学んだ知識などを活用し、自分の考えをまとめる。
☒ 単元で得た情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、事実や自分の考え、気持ちなどを表現する。

Unit5-4 【R→S】

- 1 光太の紹介文を読み、それぞれの UD の良さを理解する。
- 2 ALT が日本で感じた便利なことや不便なことについて話を聞く。
☒ インプット量を増やすため、ALT を活用する。
- 3 だれもが住みやすい社会のために自分が必要だと考えることなどを理由も添えて伝え合う。

Unit5-3 【R→S】

- 1 咲の「車いす体験」を読み、車いすの不便な点について情報を出し合う。
- 2 実際に車いすを使って生活している人からの手紙を読む。
☒ インプット量を増やすため、教科書以外の英文を活用する。
- 3 授業で学んだことや感じたことを伝え合う。
☒ 聞いたり読んだりしたことについて簡単な理由や根拠などを加えて自分の考えや気持ちを伝える。

Unit5-2 【LR→W】

- 1 光太がどんな失敗をしたのかを聞き取る。
- 2 咲へ今日の出来事を伝えるメール文を作成する。
- 3 ペアでお互いのメールを読み、相手のメールに返事を書く。
☒ 読むだけで終わらずに、次の表現活動につなげる。

Unit 5-1 【L→S】

- 1 UD 商品の説明をメモを取りながら聞き取る。
- 2 UD 商品に関するクイズに答えたり、クイズを作成したりする。

単元の最初に、単元のゴールを生徒と共有する。

(※UD→Universal Design)

ウォームアップでは、単元を通して活用させたい既習表現に繰り返し触れられるように工夫する。

Ⅱ 質問紙調査結果の分析・考察

1 小学校第4学年児童の調査結果

学校が好き、各教科等の勉強が好き、各教科等の授業の内容がよくわかると答えた児童の割合については、29年度より若干減少しているものの、これまでと同様に、ほとんどの教科・領域で80%以上、高いものは90%を上回っており、全般的に小4児童の学習意欲は概ね良好である。

学びの12か条 + 4

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている」(91.9%)、「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていたと思う」(83.5%)児童の割合はいずれも高い。

学びの12か条 + 8・9

○家庭での学習時間について、「学校の宿題をしている」(96.2%)児童の割合はこれまでと同様に高く、また「休日に勉強を1時間以上している」(58.0%)児童の割合は、調査開始以来最も高い。

○「テレビゲームを2時間以上している」(24.6%)、「携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを30分以上している」(26.0%)児童の割合は、調査開始以来最も高く、今後も注意していく必要がある。

○「学校のきまりを守っている」(90.9%)、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」(90.7%)児童の割合は、これまでと同様に高い。

以上のことより、学力・学習を支える基盤づくりについては、概ね良好である。

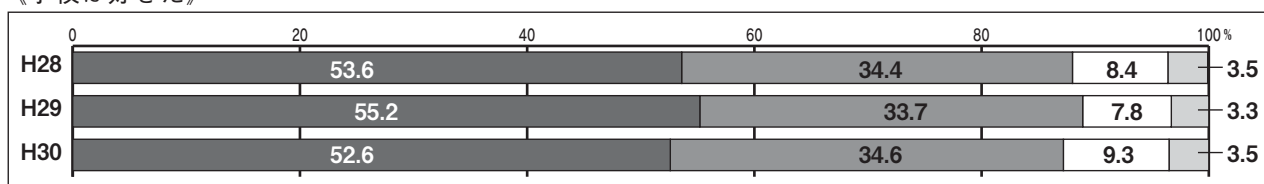
※無回答を除いた割合で示している。

1

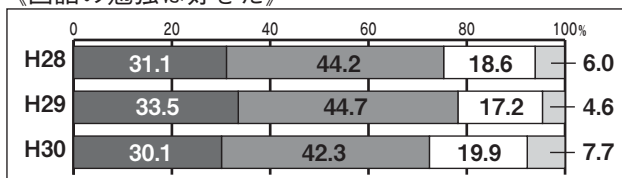
学校や各教科等の勉強は好きですか。授業の内容はよくわかりますか。

■ あてはまる ■ どちらかといえばあてはまる □ どちらかといえばあてはまらない ■ あてはまらない

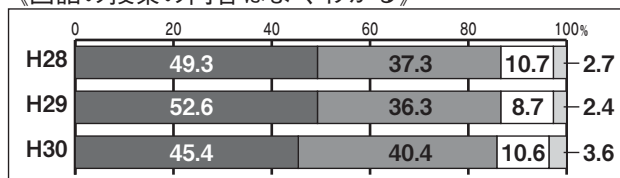
《学校は好きだ》



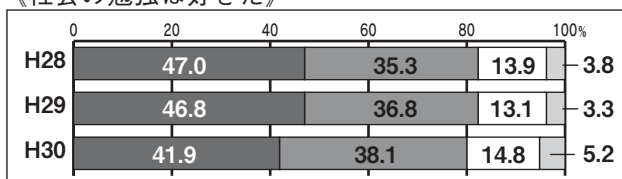
《国語の勉強は好きだ》



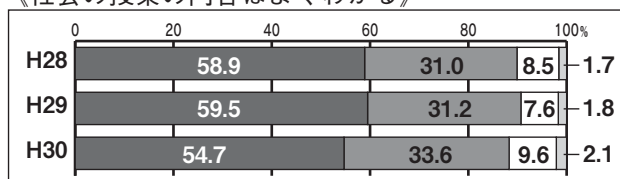
《国語の授業の内容はよくわかる》



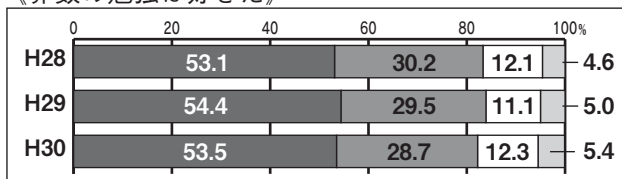
《社会の勉強は好きだ》



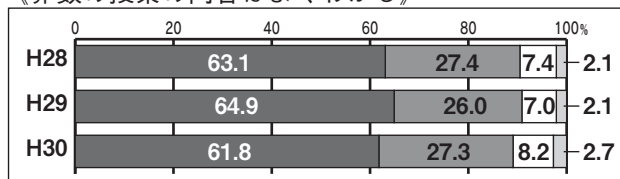
《社会の授業の内容はよくわかる》



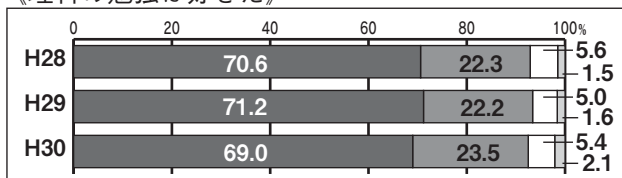
《算数の勉強は好きだ》



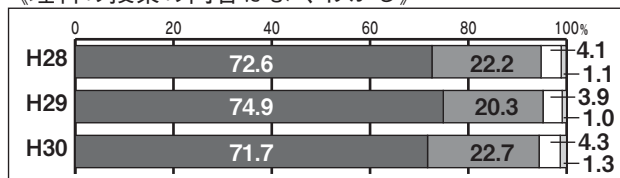
《算数の授業の内容はよくわかる》



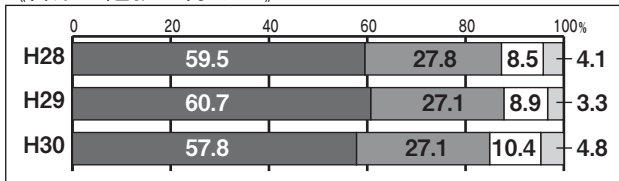
《理科の勉強は好きだ》



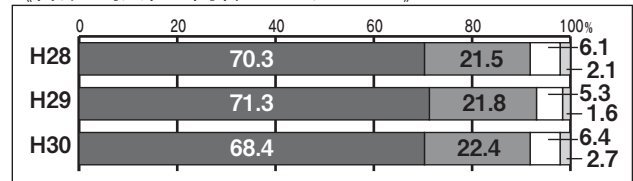
《理科の授業の内容はよくわかる》



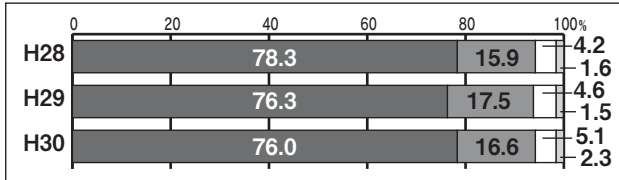
《音楽の勉強は好きだ》



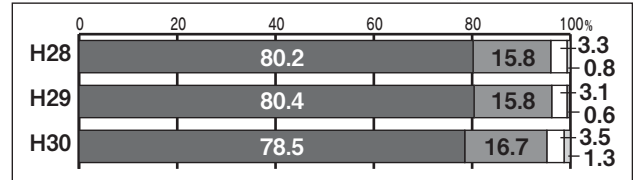
《音楽の授業の内容はよくわかる》



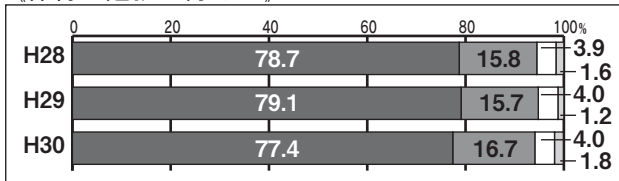
《図画工作の勉強は好きだ》



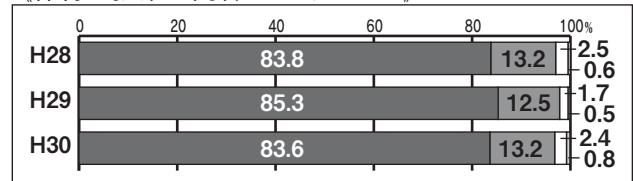
《図画工作の授業の内容はよくわかる》



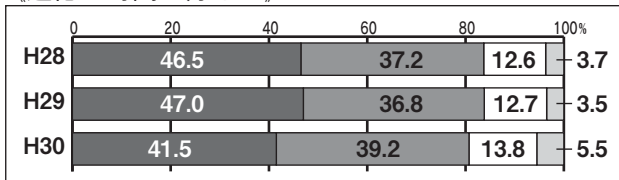
《体育の勉強は好きだ》



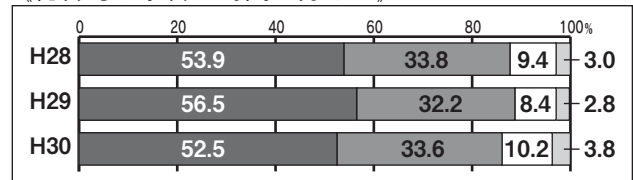
《体育の授業の内容はよくわかる》



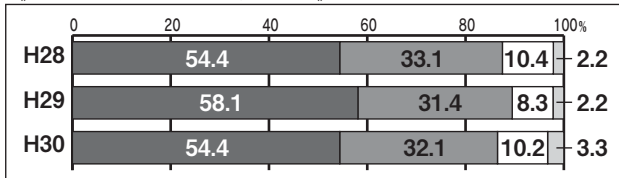
《道徳の時間は好きだ》



《総合的な学習の時間は好きだ》



《学級活動の時間は好きだ》

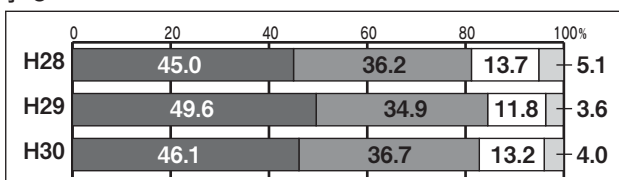


- ・《国語の勉強は好きだ》について、肯定的な回答をした児童の割合は、72.4%であり、29年度より5.8ポイント減少している。

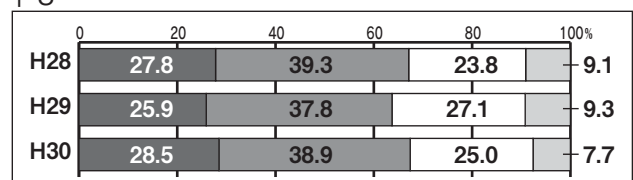
〈参考〉

《外国語活動(英語)の時間・英語の勉強は好きだ》

小6



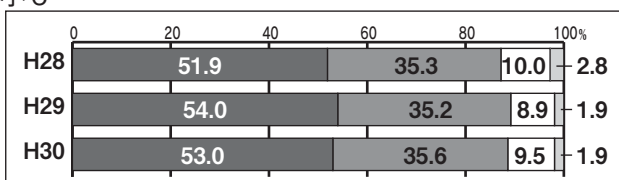
中3



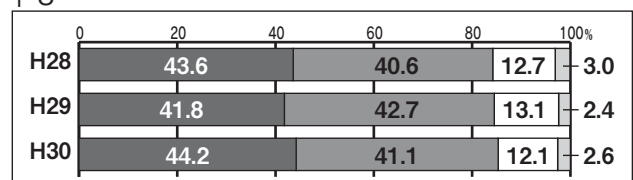
- ・《英語の勉強は好きだ》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、中3で67.4%であり、調査開始以来最も高い。

《学級活動の時間は好きだ》

小6



中3



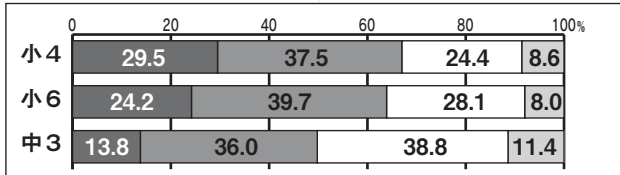
- ・《学級活動の時間は好きだ》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、中3で85.3%であり、調査開始以来最も高い。

2 授業の中で次のようなことは好きですか。

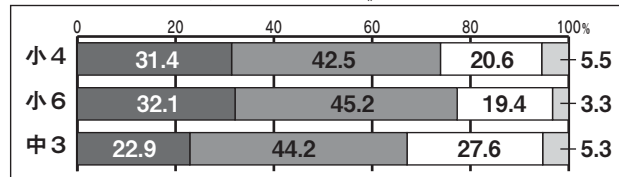
■ 好き ■ どちらかといえば好き □ どちらかといえば好きではない ■ 好きではない

<学年間比較>

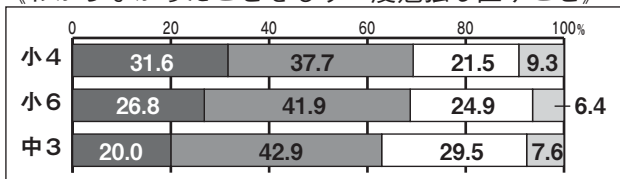
《自分の考えを发表或ししたり，話し合ったりすること》



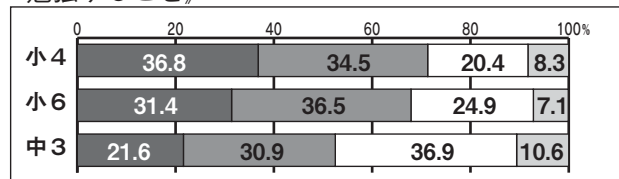
《課題について，自分で考えた方法で調べたり確かめたりしながら勉強すること》



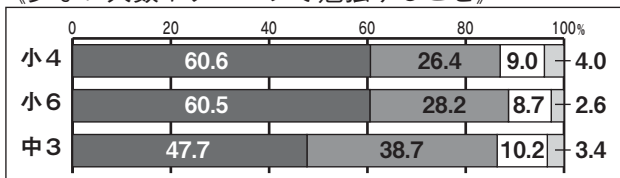
《わからなかったことをもう一度勉強し直すこと》



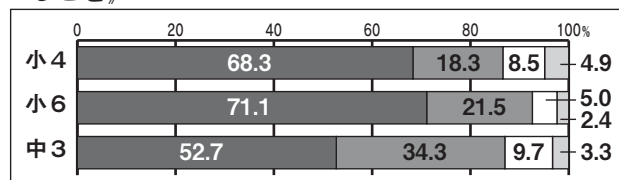
《教科書に出ていないことやもっとくわしいことを勉強すること》



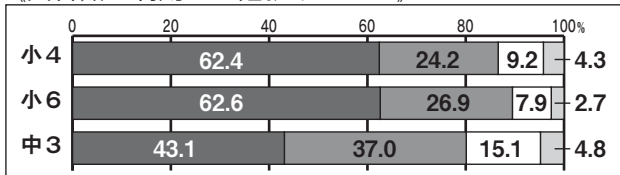
《少ない人数やグループで勉強すること》



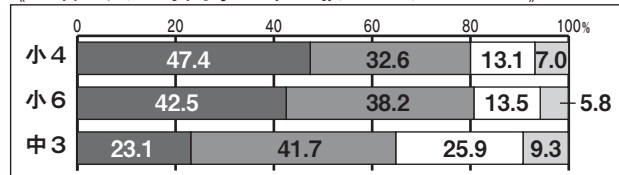
《コンピュータやビデオ・DVDなどを使って勉強すること》



《図書館を利用して勉強すること》



《地域の人や専門家が来て教えてくれること》

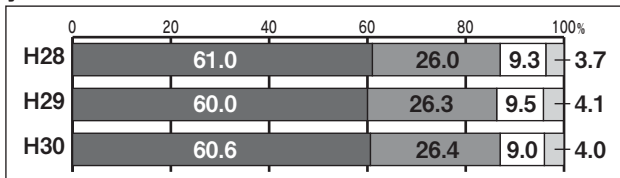


- ・《コンピュータやビデオ・DVDなどを使って勉強すること》について，肯定的な回答をした児童生徒の割合は，86.6%～92.6%であり，いずれの学年においても高く，他の項目に比べて学年間の差が小さい。

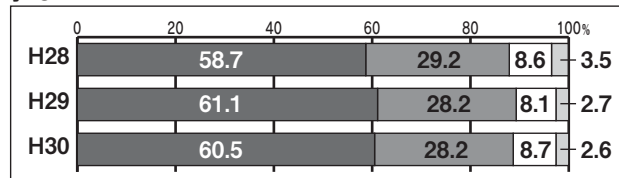
<参考>

《少ない人数やグループで勉強すること》

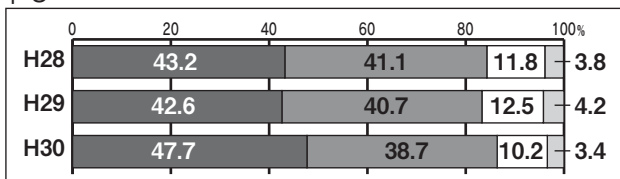
小4



小6



中3



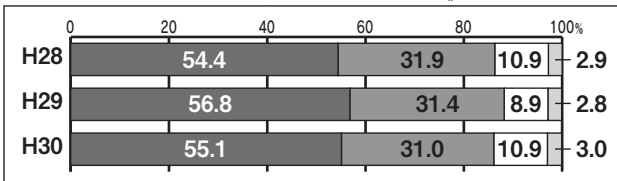
- ・《少ない人数やグループで勉強すること》が「好き」と答えた児童生徒の割合は，29年度より小4で0.7ポイント，中3では3.1ポイント増加している。

3

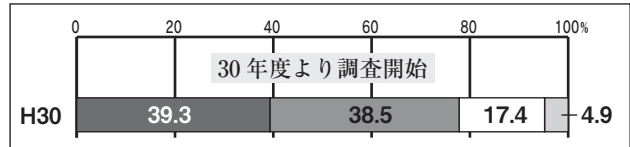
次のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。

■ あてはまる ■ どちらかといえばあてはまる □ どちらかといえばあてはまらない □ あてはまらない

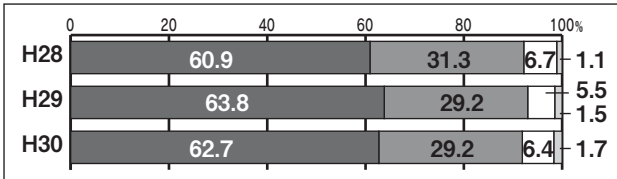
《算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えている》



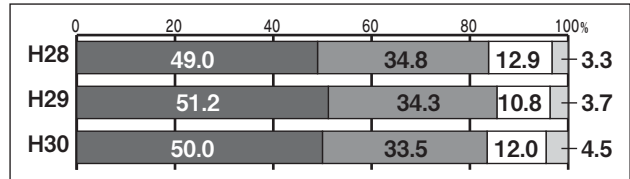
《道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたいと思う》



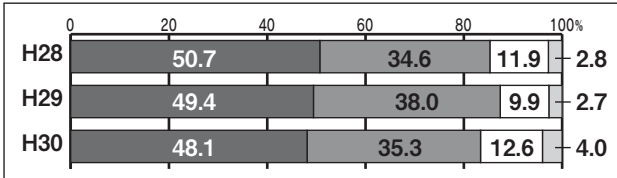
《友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている》



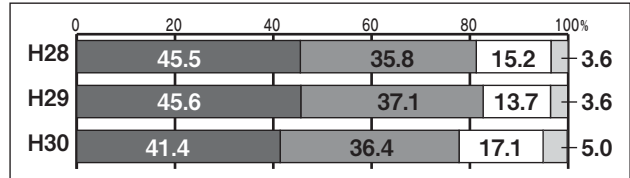
《授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていたと思う》



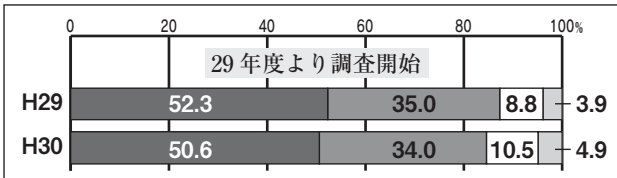
《授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う》（※28年度は「授業のはじめに〜」）



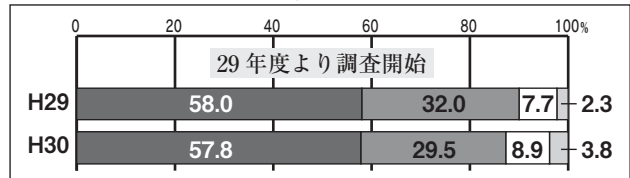
《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》



《先生は、あなたのよいところをわかってくれていると思う》



《先生は、授業やテストで間違えたところや、わからないところについて、わかるまで教えてくれる》



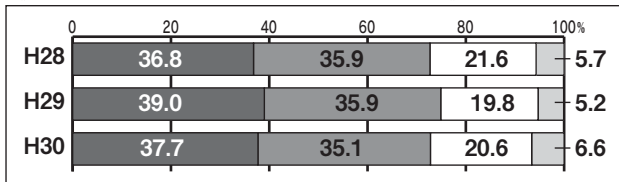
- ・《授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う》の項目については、P. 55 参照。
- ・《先生は、あなたのよいところをわかってくれていると思う》《先生は、授業やテストで間違えたところや、わからないところについて、わかるまで教えてくれる》について、肯定的な回答をした児童の割合は、84.6%、87.3%であり、29年度よりどちらも2.7ポイント減少している。

4

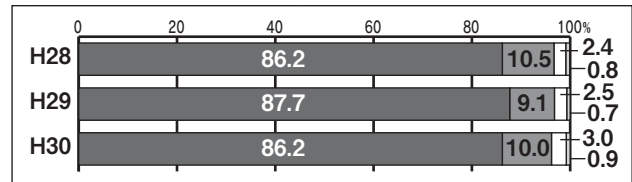
家で次のようなことをしていますか。

■ している ■ どちらかといえばしている □ あまりしていない ■ 全くしていない

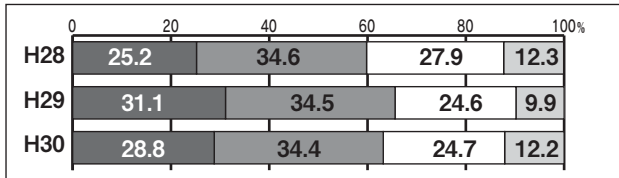
《自分で計画を立てて勉強をしている》



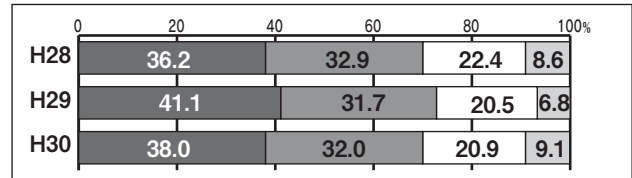
《学校の宿題をしている》



《学校の授業の予習をしている》



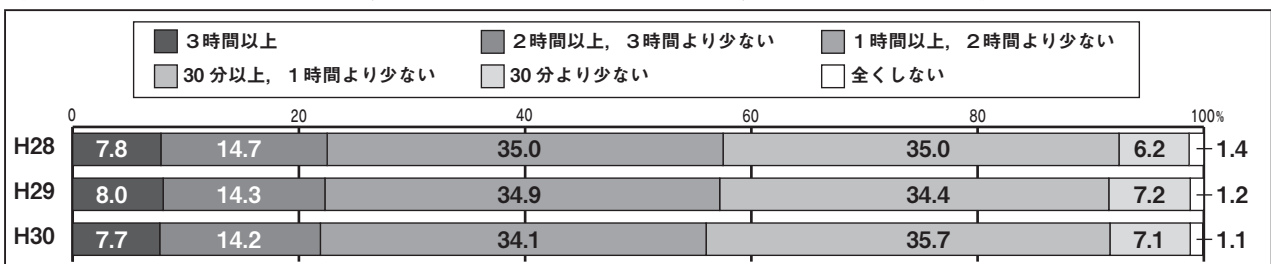
《学校の授業の復習をしている》



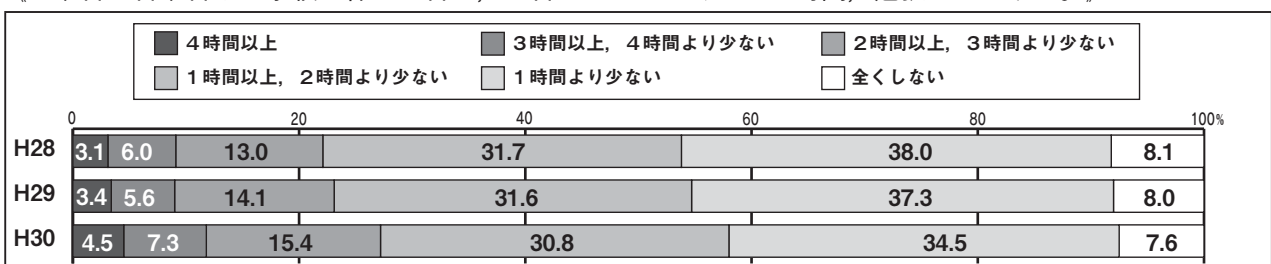
- ・《学校の宿題をしている》について、肯定的な回答をした児童の割合は、96.2%であり、これまでと同様に高い。特に、「している」と積極的な回答をした児童の割合は、他の項目に比べ群を抜いて高い。
- ・《学校の授業の予習をしている》《学校の授業の復習をしている》について、肯定的な回答をした児童の割合は、63.2%、70.0%であり、29年度よりそれぞれ2.4ポイント、2.8ポイント減少している。

5

《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。》



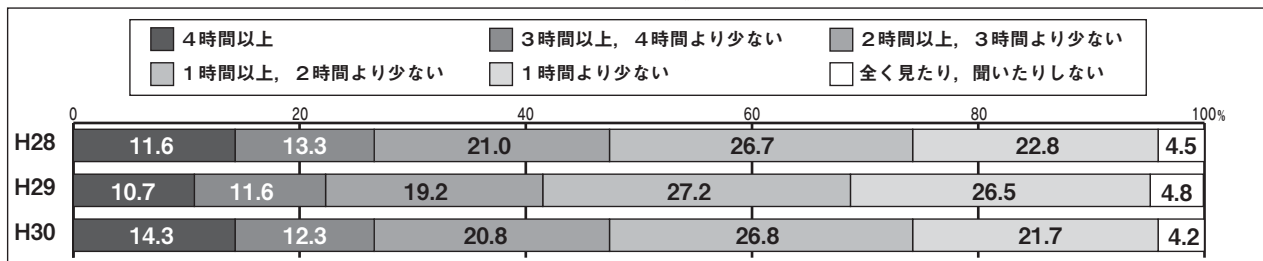
《土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。》



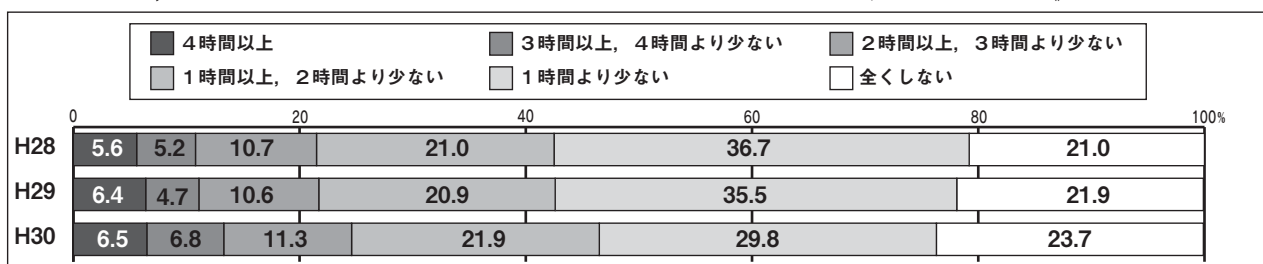
- ・家庭学習時間について、平日に1時間以上勉強する児童の割合は56.0%、30分以上勉強する児童の割合は91.7%であり、これまでと同様に高い。
- ・学校が休みの日に1時間以上勉強する児童の割合は58.0%であり、調査開始以来最も高く、平日に1時間以上勉強する児童の割合より高い。

6

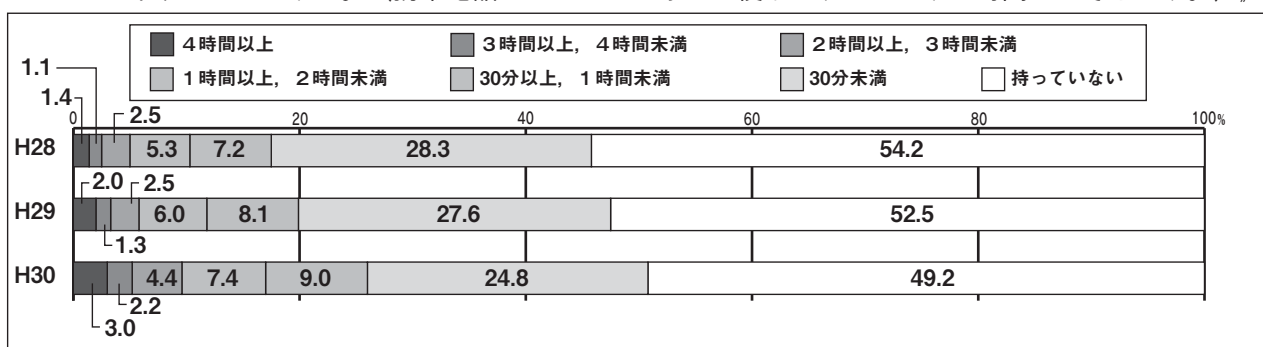
《ふだん（月曜日から金曜日），１日あたりどれくらいの時間，テレビやビデオ・DVDを見たり，聞いたりしますか。（テレビゲームをする時間はのぞきます。）》



《ふだん（月曜日から金曜日），１日あたりどれくらいの時間，テレビゲーム（コンピュータゲーム，携帯式のゲーム，携帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふくみます。）をしますか。》



《ふだん（月曜日から金曜日），１日あたりどれくらいの時間，携帯電話やスマートフォンで通話やメール，インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間はのぞきます。）》



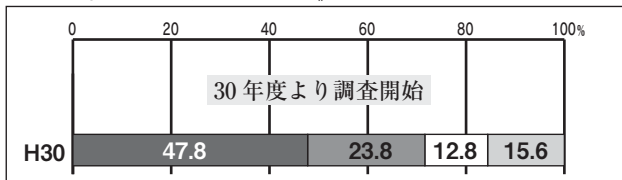
- ・ 普段のテレビ等の視聴時間について，「２時間以上」と答えた児童の割合は，47.4％であり，29年度より5.7ポイント増加している。
- ・ 普段のテレビゲーム等の使用時間について，「２時間以上」と答えた児童の割合は，24.6％であり，調査開始以来最も高い。
- ・ 普段の携帯電話やスマートフォンの使用時間について，「30分以上」と答えた児童の割合は，25.9％であり，調査開始以来最も高い。

7

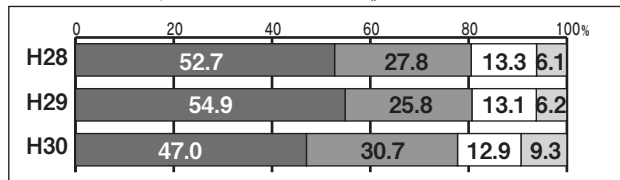
次のことは、あなたにどのくらいあてはまりますか。

■ あてはまる ■ どちらかといえばあてはまる □ どちらかといえばあてはまらない ■ あてはまらない

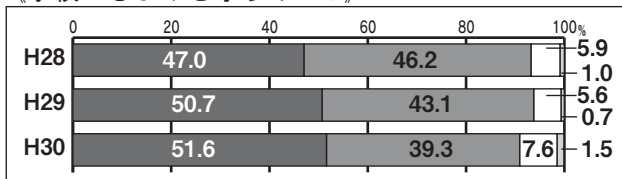
《テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めている》



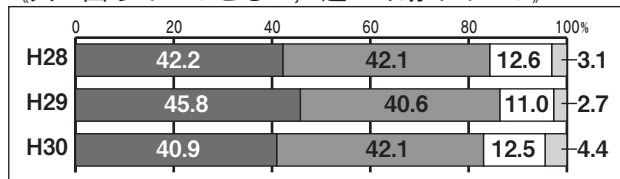
《学校での出来事について、家の人（兄弟姉妹はふくみません）と話をしている》



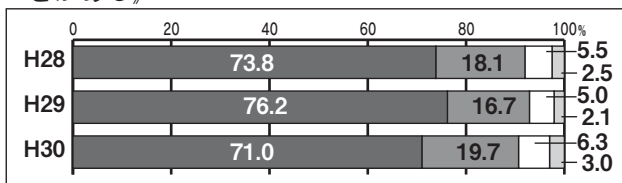
《学校のきまりを守っている》



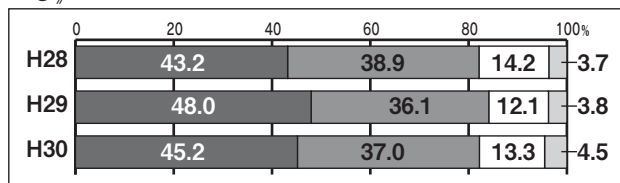
《人が困っているときは、進んで助けている》



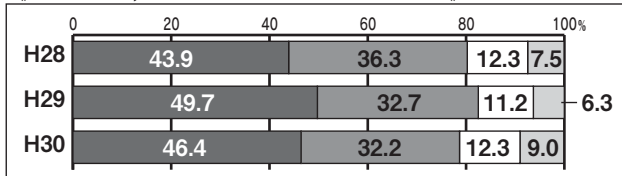
《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》



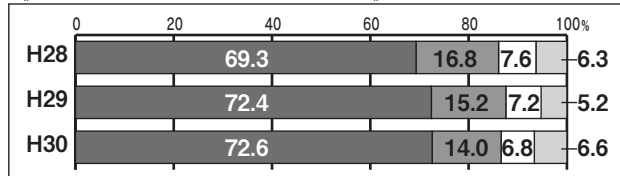
《難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している》



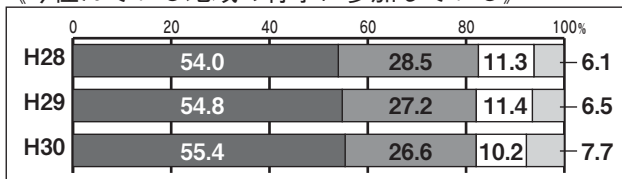
《自分には、よいところがあると思う》



《将来の夢や目標を持っている》



《今住んでいる地域の行事に参加している》



《外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う》



- ・《テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めている》について、肯定的な回答をした児童の割合は、71.6%である。
- ・《学校での出来事について、家の人と話をしている》について、「あてはまる」と積極的な回答をした児童の割合は、47.0%であり、29年度より7.9ポイント減少している。
- ・《学校のきまりを守っている》《将来の夢や目標を持っている》《今住んでいる地域の行事に参加している》について、肯定的な回答をした児童の割合は、90.9%、86.6%、82.0%であり、これまでと同様に高い。また、「あてはまる」と積極的な回答をした児童の割合は、51.6%、72.6%、55.4%であり、調査開始以来最も高い。

2 学習・生活状況と正答率との関係

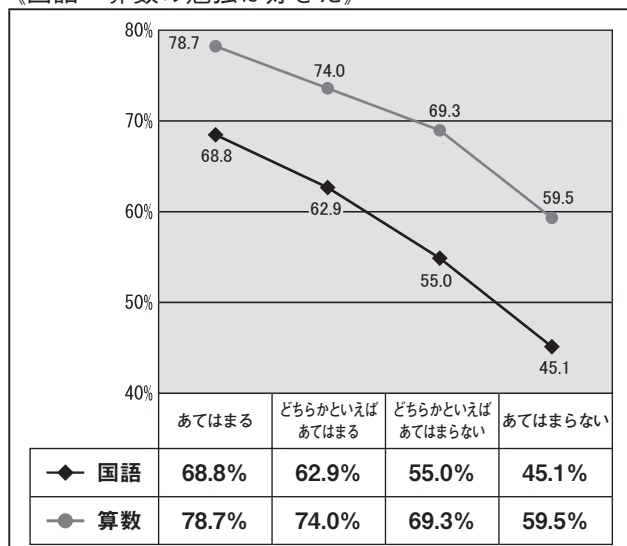
○小4児童の学習生活状況について、以下と回答している児童の方が、教科(国語・算数)の正答率が高い傾向が見られる。

- ・国語・算数の勉強は好きだ。
- ・国語・算数の授業の内容はよくわかる。
- ・国語の授業で自分の考えを話したり、書いたりしている。
- ・算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えている。
- ・授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていたと思う。
- ・授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う。
- ・授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。
- ・ふだん(月曜日から金曜日)、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が少ない、または携帯電話やスマートフォンを持っていない。
- ・学校のきまりを守っている。
- ・ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。

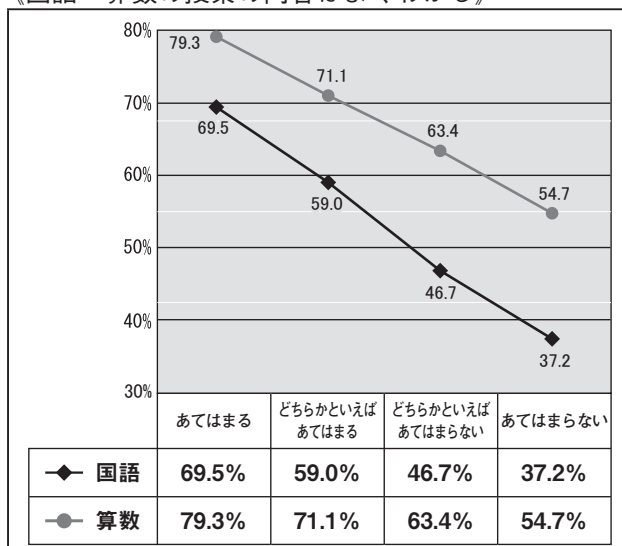
○小4児童の各教科の正答率や学習・生活状況に関する項目の関係を分析すると、次のようにまとめられる。

- ・これまでと同様に、国語と算数の正答率は相互に関連が強い。
- ・各教科の勉強が好きという項目と授業内容がよく分かるという項目の回答は、関連がある。

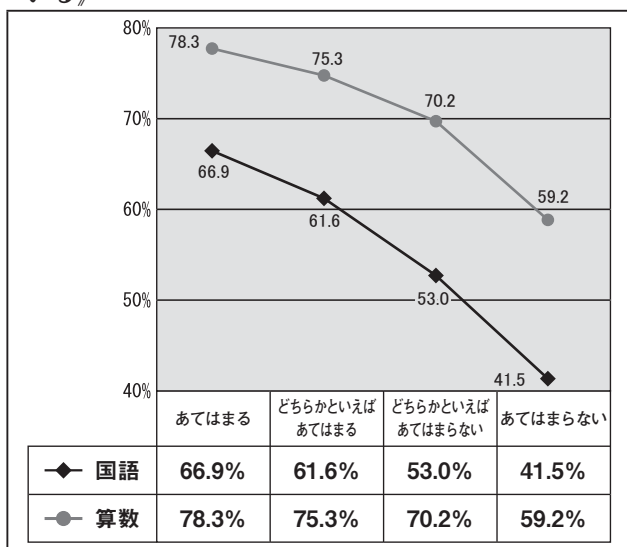
《国語・算数の勉強は好きだ》



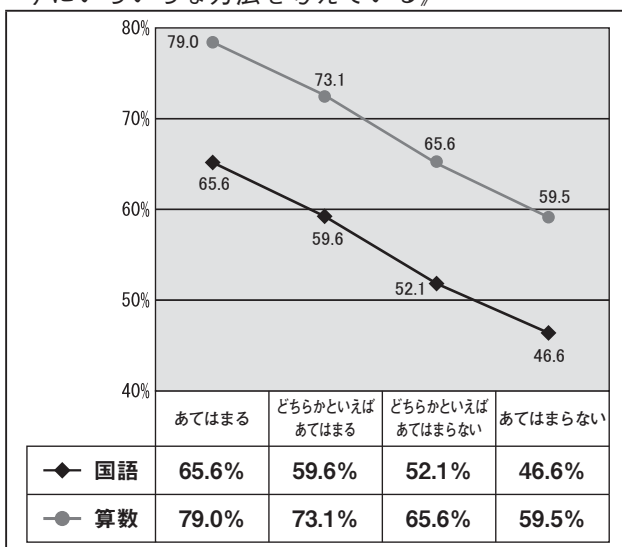
《国語・算数の授業の内容はよくわかる》



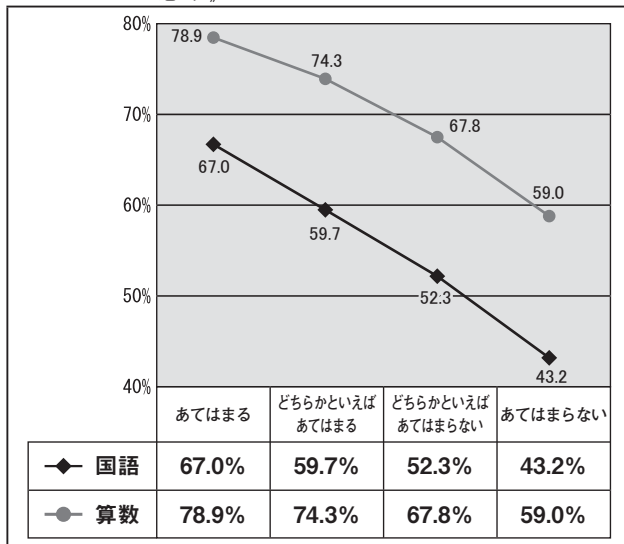
《国語の授業で自分の考えを話したり、書いたりしている》



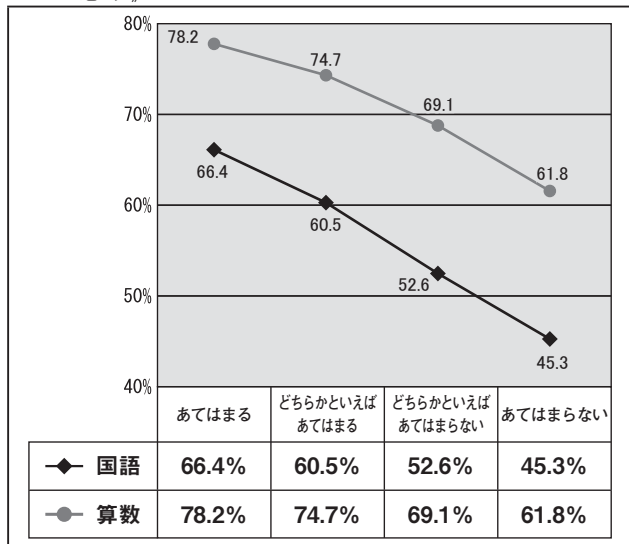
《算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えている》



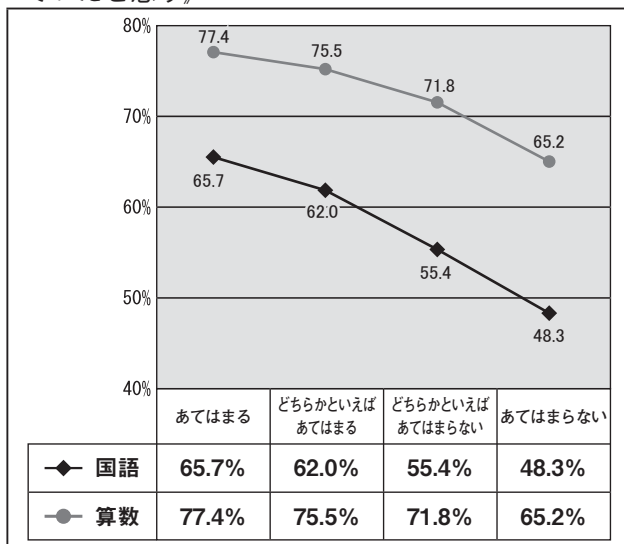
《授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていたと思う》



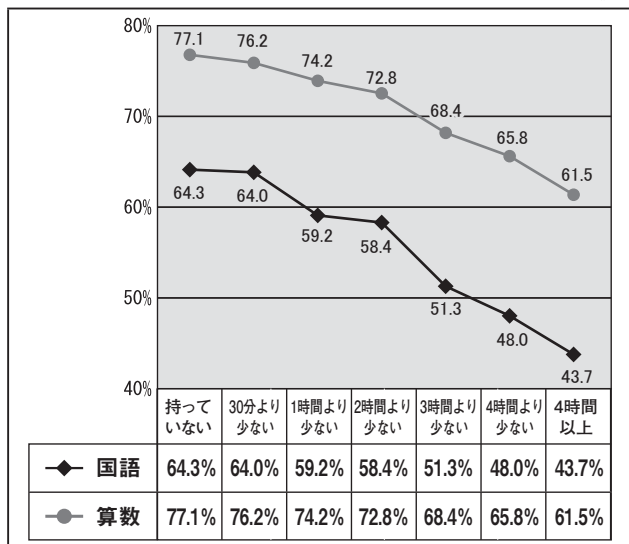
《授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う》



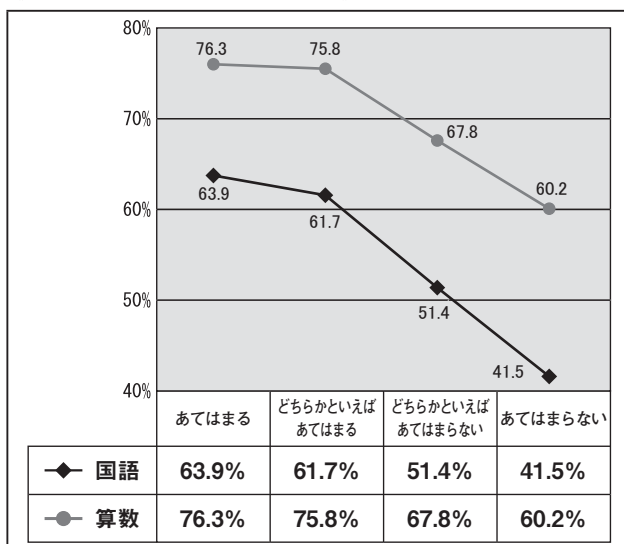
《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》



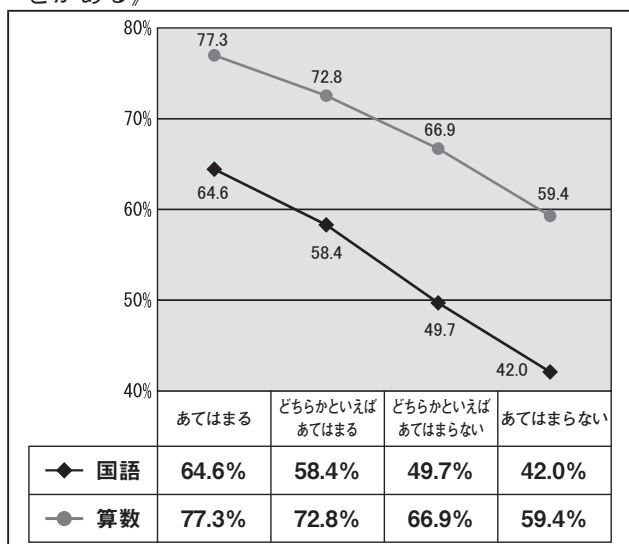
《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間はのぞく）》



《学校のきまりを守っている》



《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》



3 教員の調査結果

「1 学力の重要な要素に関すること」について、肯定的な回答をした教員の割合は、それぞれ 90%以上であり(小学校で 94.4%～98.7%, 中学校で 93.5%～97.5%), 学力の向上に向けた教員の意識は概ね良好である。

学びの12か条 + 1～3

- 「児童生徒の様々な考えを引き出したり, 思考を深めたりするような発問や指導をしている」教員の割合は, 小学校では 97.3%, 中学校では 96.2%であり, これまでと同様に高い。
- 「問題解決的な学習, 実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して, 活用力(思考力・判断力・表現力等)を育成する指導をしている」教員の割合は, 小学校では 94.4%, 中学校では 93.5%であり, これまでと同様に高い。
- 「考えの根拠や筋道を明確にして, 説明や論述ができるように指導をしている」教員の割合は, 小学校では 90.7%, 中学校では 82.6%であり, これまでと同様に高い。

学びの12か条 + 6～8

- 「児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して, 学び合う場を設けている」教員の割合は, 小学校で 97.7%, 中学校で 94.7%であり, これまでと同様に高い。
- 「児童生徒がコンピュータなどを使う学習活動を取り入れた指導をしている」教員の割合は, 29年度と比較して中学校では 3.0ポイント増加している。
- 「児童生徒が取り組んだ宿題について, 評価・指導を行っている」教員の割合は, 小学校で 97.1%, 中学校で 92.4%であり, これまでと同様に高い。

学びの12か条 + 10・11

- 「自校の『学力向上プラン』に基づく指導をしている」教員の割合は, 小学校で 94.9%, 中学校で 92.9%であり, これまでと同様に高い。

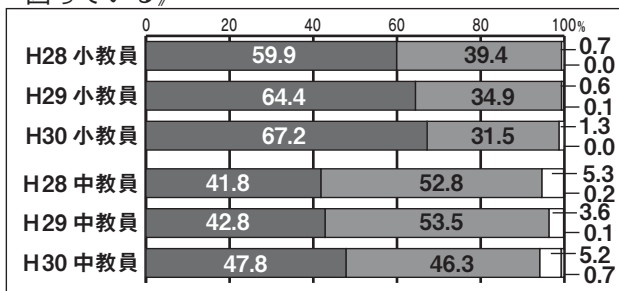
※「回答できない」及び無回答を除いた割合で示している。

次の指導等を, 昨年度からどの程度行っていますか。

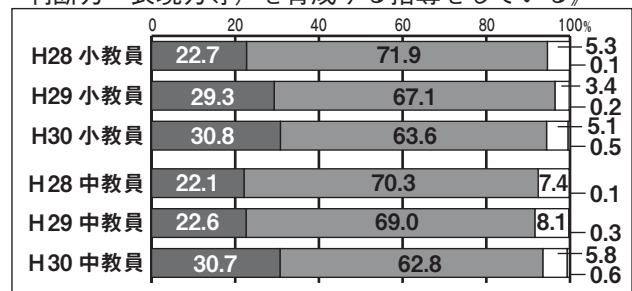
☒ よくしている
 ☒ している
 ☐ あまりしていない
 ☐ ほとんどしていない

1 学力の重要な要素に関すること

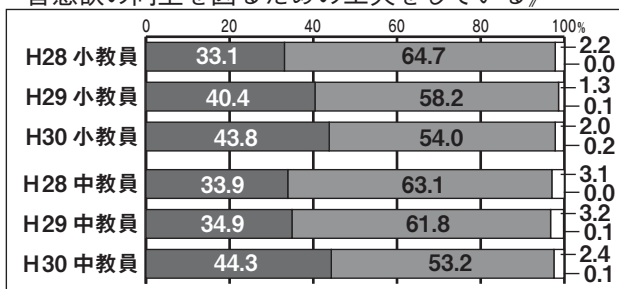
《繰り返し学習(音読, 暗記・暗唱, 反復学習など)を通して, 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っている》



《問題解決的な学習, 実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して, 活用力(思考力・判断力・表現力等)を育成する指導をしている》



《課題設定や授業展開, 教材・教具の開発など, 学習意欲の向上を図るための工夫をしている》



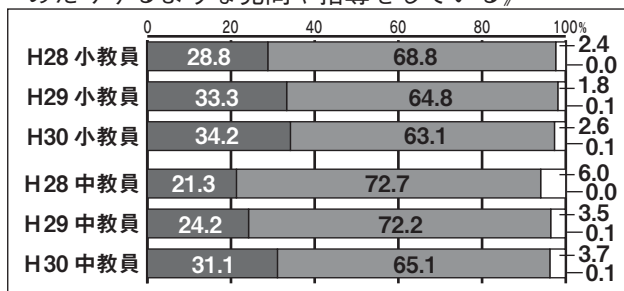
<29年度と比べて上昇した項目>

- ・《活用力を育成する指導をしている》《学習意欲の向上を図るための工夫をしている》について, 「よくしている」と積極的な回答をした中学校教員の割合は, それぞれ8.1ポイント, 9.4ポイント増加している。

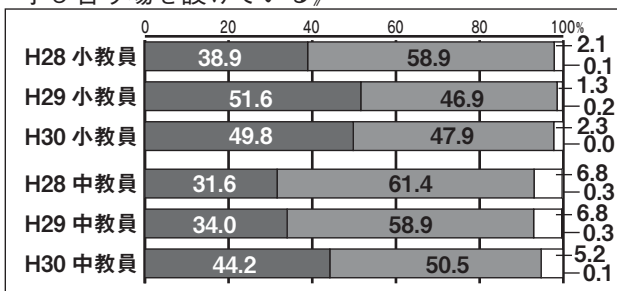
2

教科等に関すること

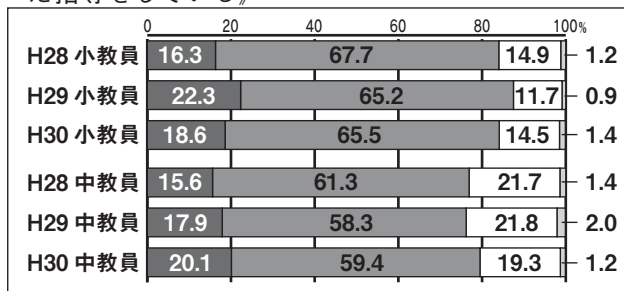
《児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている》



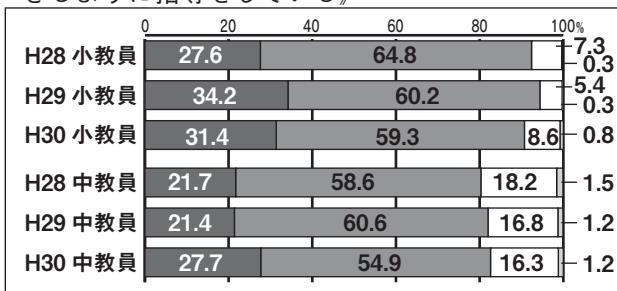
《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている》



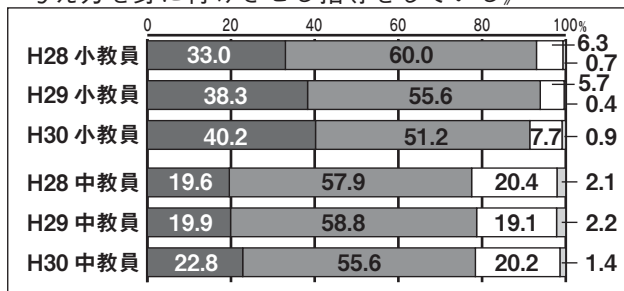
《記録、要約、説明、論述などの言語活動を重視した指導をしている》



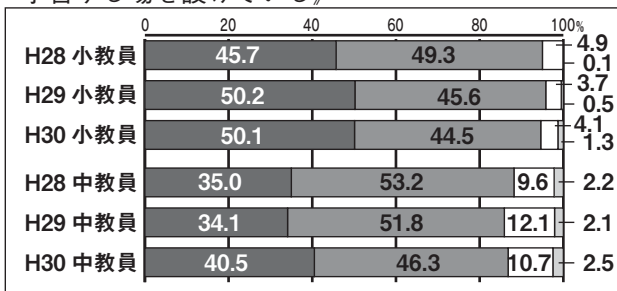
《考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるように指導をしている》



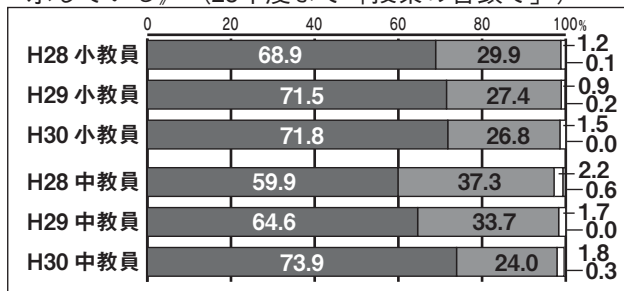
《ノートの書き方やまとめ方などの指導を通して、考え方を身に付けさせる指導をしている》



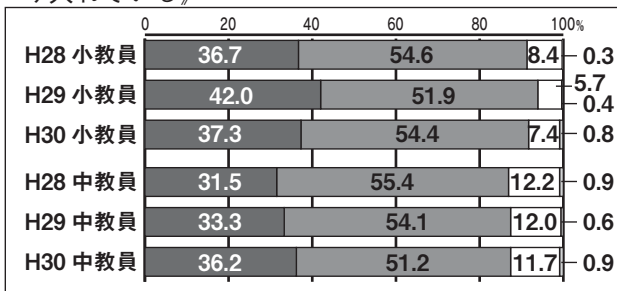
《児童生徒がテストの間違ったところを振り返って学習する場を設けている》



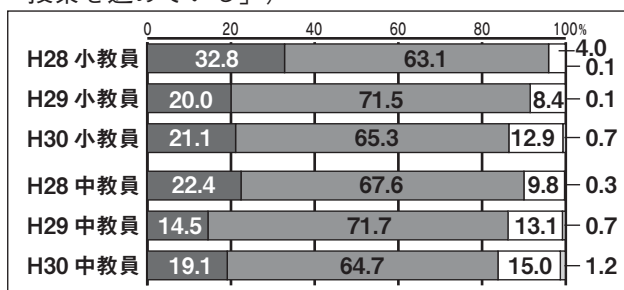
《授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示している》（28年度まで「授業の冒頭で」）



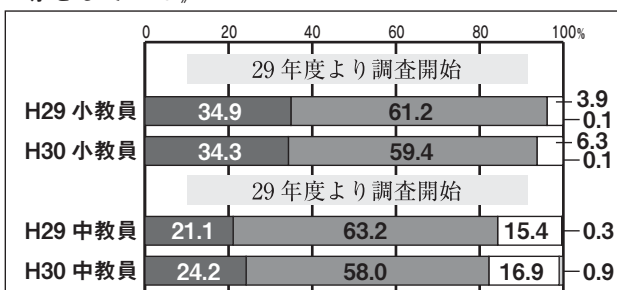
《授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている》



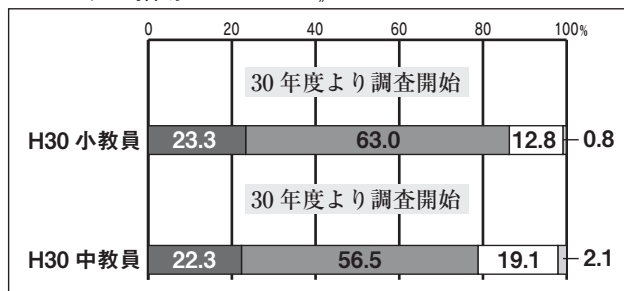
《授業において、明確な評価規準を基に児童生徒の定着状況を把握し、学習指導の改善に生かしている》
（28年度まで「児童生徒の学習状況を評価しながら授業を進めている」）



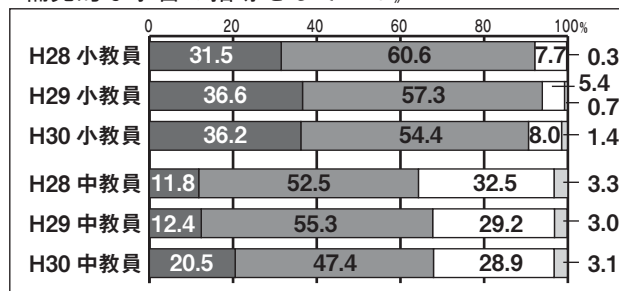
《授業において、児童生徒一人一人に自分の成長や変容を自覚させるなど、自信を持たせるような指導をしている》



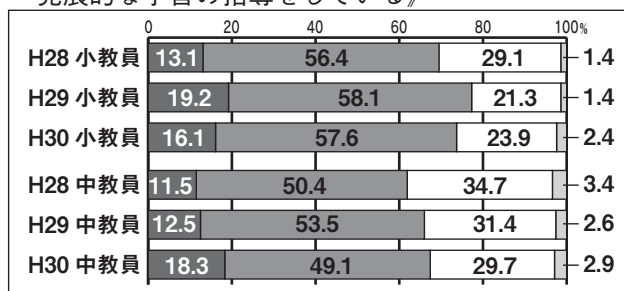
《授業で身に付けたことを課題の解決に活用したり、他教科や日常生活の様々な場面で生かしたりできるように指導をしている》



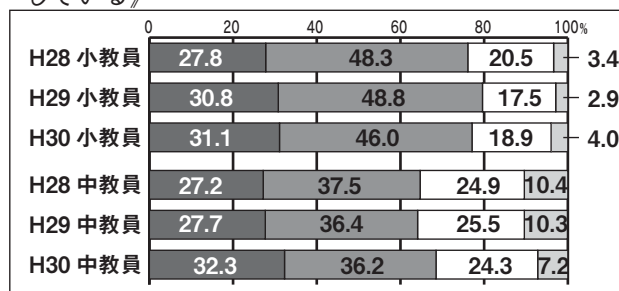
《個に応じた指導として、習熟の遅い児童生徒に、補充的な学習の指導をしている》



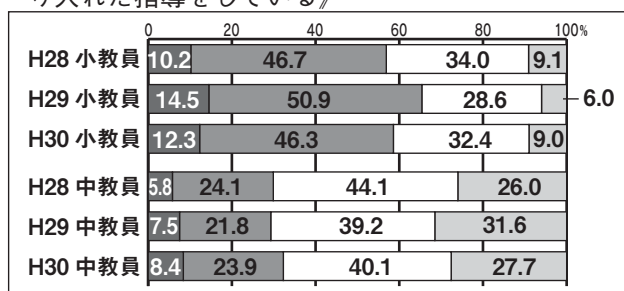
《個に応じた指導として、習熟の早い児童生徒に、発展的な学習の指導をしている》



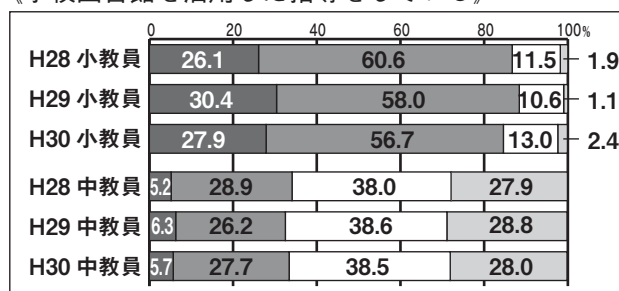
《コンピュータなどを使って、資料を拡大表示したり、デジタル教材を活用したりするなどの工夫をしている》



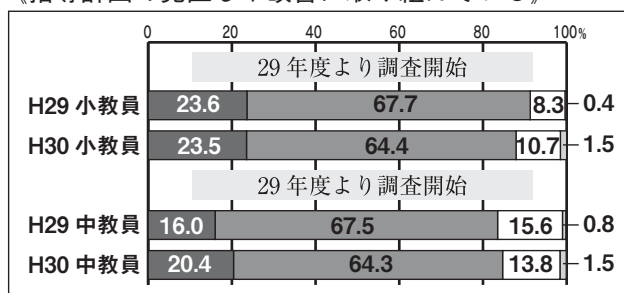
《児童生徒がコンピュータなどを使う学習活動を取り入れた指導をしている》



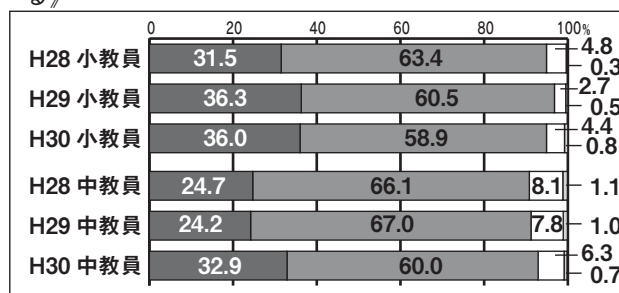
《学校図書館を活用した指導をしている》



《指導計画の見直しや改善に取り組んでいる》



《自校の「学力向上プラン」に基づく指導をしている》



＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

- ・《児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている》《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている》《授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示している》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で97.3～98.6%，中学校で94.7～97.9%であり、これまでと同様に高い。

＜29年度と比べて上昇した項目＞

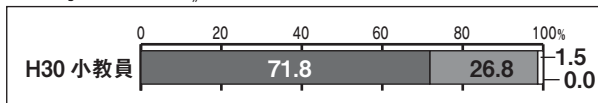
- ・中学校教員においては、以下の項目について、「よくしている」と積極的に回答した教員の割合の増加が顕著である。

《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている》	44.2%	(10.2ポイント増加)
《授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示している》	73.9%	(9.3ポイント増加)
《個に応じた指導として、習熟の遅い児童生徒に、補充的な学習の指導をしている》	20.5%	(8.1ポイント増加)
《自校の「学力向上プラン」に基づく指導をしている》	32.9%	(8.7ポイント増加)

<その他、留意する項目>

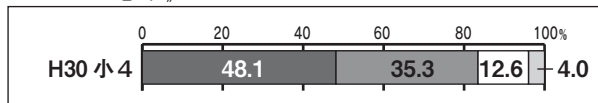
※教員質問紙より

《授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示している》



※小学校第4学年質問紙より

《授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う》

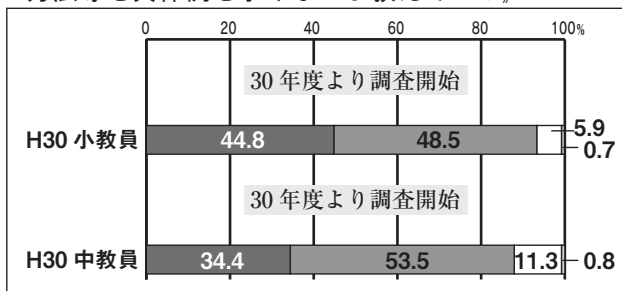


- ・《授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示している》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で98.6%であり、これまでと同様に高い。しかし、小学校第4学年児童の調査結果では、《授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う》について、肯定的な回答をした児童の割合は、83.4%である。

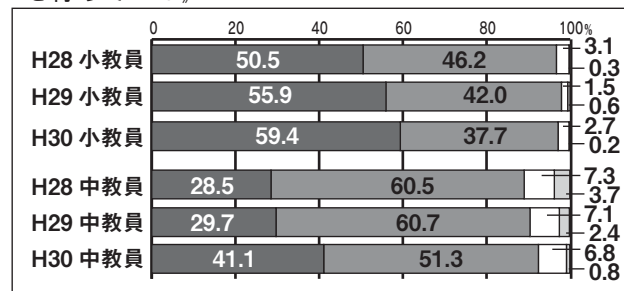
3

家庭学習に関すること

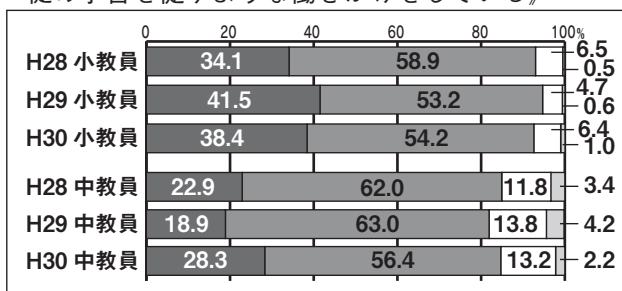
《家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えている》



《児童生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている》



《学校・学年・学級単位で、保護者に対して児童生徒の学習を促すような働きかけをしている》



<肯定的な回答の割合が高い項目>

- ・《児童生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で97.1%、中学校で92.4%であり、これまでと同様に高い。

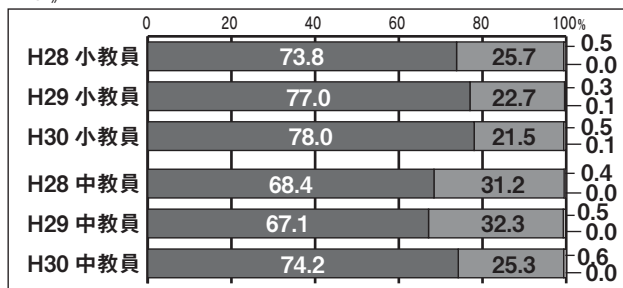
<29年度と比べて上昇した項目>

- ・中学校教員においては、以下の項目について、「よくしている」と積極的に回答した割合の増加が顕著である。
- 《児童生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている》・・・41.1%（11.4ポイント増加）
- 《学校・学年・学級単位で、保護者に対して児童生徒の学習を促すような働きかけをしている》・・・28.3%（9.4ポイント増加）

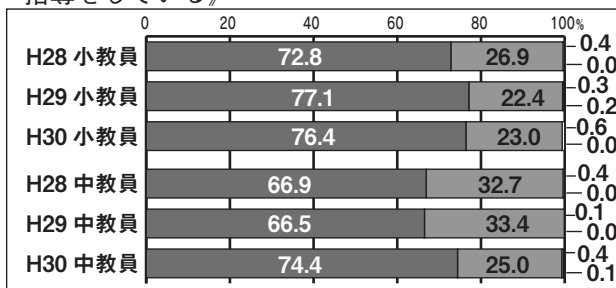
4

学習規律等に関すること

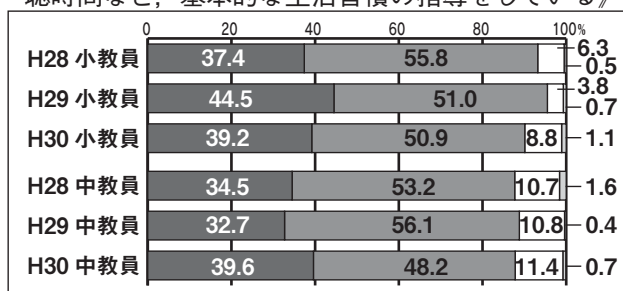
《私語をしない、相手を意識して話す・聞く、授業開始の時刻を守るなど、学習規律の指導をしている》



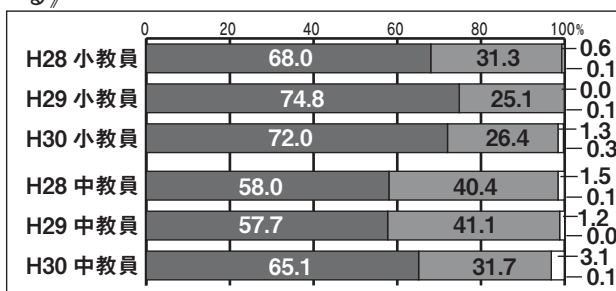
《児童生徒に、校則や集団生活のルールを守るよう指導をしている》



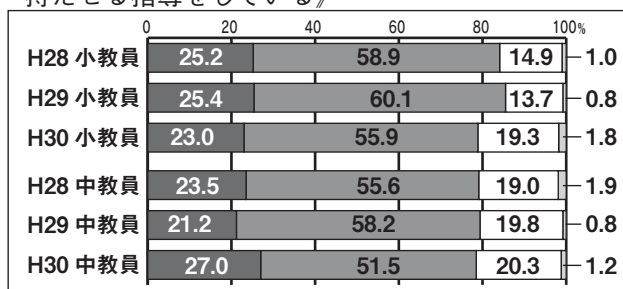
《児童生徒に、早寝・早起き・朝ご飯・テレビの視聴時間など、基本的な生活習慣の指導をしている》



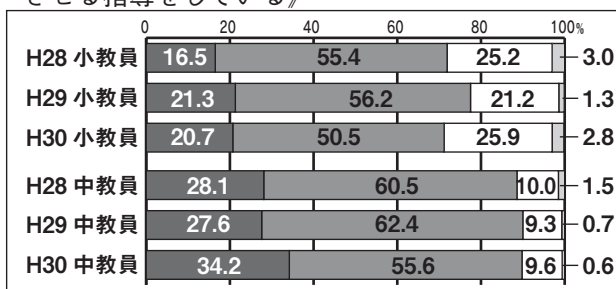
《児童生徒に、進んで挨拶をするよう指導をしている》



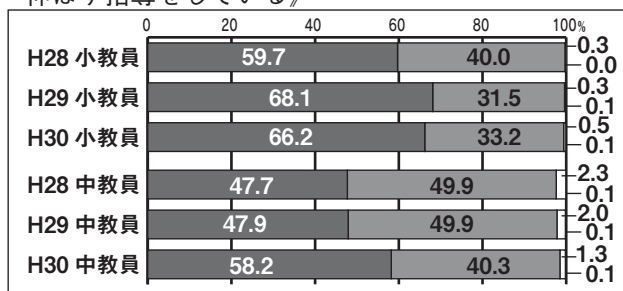
《地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を持たせる指導をしている》



《児童生徒に、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている》



《児童生徒をほめたり、励ましたりしながら、長所を伸ばす指導をしている》



<肯定的な回答の割合が高い項目>

- 《私語をしない、相手を意識して話す・聞く、授業開始の時刻を守るなど、学習規律の指導をしている》《児童生徒に、校則や集団生活のルールを守るよう指導をしている》《児童生徒に、進んで挨拶をするよう指導をしている》《児童生徒をほめたり、励ましたりしながら、長所を伸ばす指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で98.4～99.5%、中学校で96.8～99.5%と、これまでと同様に高い。

<29年度と比べて上昇した項目>

- 中学校教員においては、《児童生徒をほめたり、励ましたりしながら、長所を伸ばす指導をしている》について、「よくしている」と積極的に回答した割合は、58.2%であり、29年度より10.3ポイント増加している。

改訂 いしかわ学びの指針12か条【^{プラス}学びの12か条＋】

活用力を高める授業づくり

1. 物事を多様な観点から考察する力の育成

- ◇得た情報を表面的に捉えずに多面的・多角的に検討させ、思考・判断できるようにする
- ◇他者と話し合い、問題解決を進めるための情報の送り方・受け取り方が身に付くようにする

2. 自ら課題を発見し、主体的・協働的に課題を解決する力の育成

- ◇知識・技能を活用して主体的・協働的に課題解決に取り組む学習【アクティブ・ラーニング】を進める
- ◇各教科等の文脈の中で身に付ける力と、教科横断的に身に付ける力とを相互に関連付けながら育成する

3. 根拠や筋道を明確に表現する力の育成

- ◇考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるようにする
- ◇思考の過程がわかる書き方や書く内容を明確に示すなど、ノート指導を充実する

学力・学習を支える基盤づくり

4. 目的や状況・相手に応じて「聞く」「話す」態度・姿勢の醸成

- ◇目的や状況・相手に応じて適切に「聞く」「話す」ことを、低学年から意図的・計画的に指導する
- ◇相手や内容に関心を持ち、安心して最後まで聞き合い、話し合う態度や姿勢が身に付くようにする

5. 目的や条件に応じて「書く」、必要な情報を「読む」態度・姿勢の醸成

- ◇目的や条件に応じ、質や量を考えて書くことができるようにする
- ◇文章や表・グラフなどから、必要な情報や価値のある情報を読み取ることができるようにする

6. よりよい解決に向かうための質の高い学び合いのプロセスの重視

- ◇多様性を尊重する態度と、互いのよさを生かして協働する力が身に付くようにする
- ◇目的やねらいに向け、相互の考えを整理したりまとめ上げたりする技能が身に付くようにする

7. 主体的な問題解決のための効果的なICT活用の促進

- ◇メディアの特性を生かした授業づくりを進める
- ◇学校・地域にあるリソースを生かし、ICTの活用スキルの確実な定着を進める

8. よりよい学習習慣・生活習慣の定着

- ◇家庭学習の充実に向け家庭や地域と連携し、よりよい習慣づくりを推進する
- ◇豊かな思考・判断の基盤となる子どもの語彙力や読解力を高めるため、読書活動を活性化する

9. 家庭や地域の人々とのコミュニケーションを促進し、家庭・地域・社会と結び付いた学びの促進

- ◇家庭や地域での大人と子どもの共通の体験や学習、対話を促進する
- ◇社会の出来事に関心を持たせ、子どもの視野を広げるとともに、将来への目的意識を持つことができるようにする

指導改善を進める体制づくり

10. 学力と指導力を持続的・継続的に高める組織づくりの推進

- ◇学校全体で目的を共有し、一人一人の役割を明確にして持続的・継続的に課題解決に取り組む
- ◇小中連携を推進し、指導の連続性を図る

11. 現状把握に基づき、取組の実施・評価・改善を図る指導体制の確立

- ◇児童生徒の現状把握から原因を究明し、目標に照らした課題とその解決に向けた具体策を設定する
- ◇中長期的な目標を設定し実践するとともに、短期的な目標達成に向けスモールステップで共通実践を行い、検証・評価・改善を積み上げる【学力向上ロードマップ】

12. 保護者・地域との積極的な情報共有・連携の推進

- ◇学校として保護者や地域に、情報や提案を積極的に発信し、情報公開に努め、目標や課題を共有する
- ◇地域の諸機関、人材との連携協力を進め、地域で子どもを育てる環境づくりを進める

平成 30 年度

「基礎学力調査」—分析・考察と指導事例—

平成 30 年 10 月発行

石川県教育委員会事務局学校指導課

〒920-8575 石川県金沢市鞍月 1 丁目 1 番地

TEL.076-225-1827

e-mail : gakusi@pref.ishikawa.lg.jp